

資料編

1. 地震や豪雨の概要及び被害の状況
2. 復興に向けたこれまでの取組
3. 復興推進委員会・部会
4. 令和6年能登半島地震復旧・復興本部
5. 用語集

1 地震や豪雨の概要及び被害の状況

1-1 令和6年能登半島地震の概要

令和6年1月1日（月）16時10分頃、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。この地震により、本町の広い範囲で震度6強や6弱の揺れを観測しました。

地震により、石川県で大津波警報が発表され、本町では4 m以上の津波の浸水高を観測するなど、能登半島の広い地域で津波による浸水が認められました。

- <発生時刻> 令和6年1月1日16時10分頃
- <震源地> 石川県能登地方（震源の深さ 約16km）
- <地震の規模> マグニチュード7.6
- <県内の震度>
- ・震度7：輪島市、志賀町
 - ・震度6強：七尾市、珠洲市、穴水町、能登町（松波）
 - ・震度6弱：中能登町、能登町（宇出津、柳田）
 - ・震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
 - ・震度5弱：白山市、津幡町、内灘町
 - ・震度4：野々市市、川北町

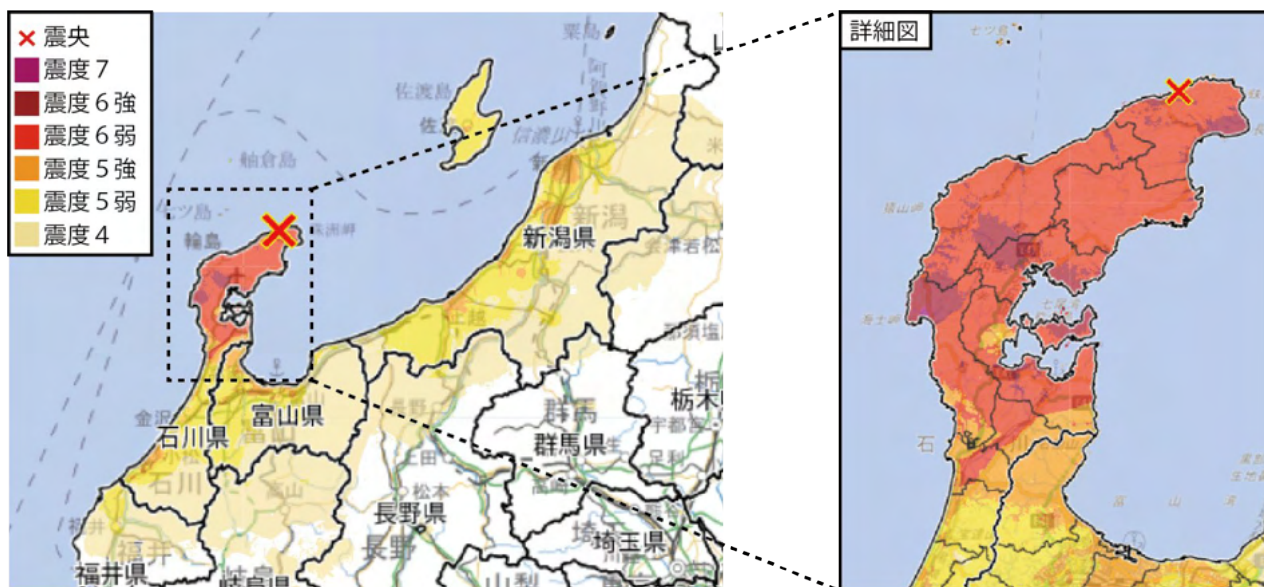


図 1-1 地震の概要

出典：気象庁ホームページ「推計震度分布」を加工して作成

1-2 令和6年能登半島地震のメカニズム

(1) 地震発生の要因

震源域が能登半島北岸に沿うように北東・南東方向に延びており、南東に傾斜した複数の断層が連動した地震であると考えられています。また、地下の流体が徐々に浅い所まで上昇し、能登半島の直下のあたりに溜まっていたことで、滑りやすくなり、複数の断層が広範囲でずれたことで、大地震が発生したと考えられています。

(2) メカニズム

1) 隆起

地震発生の要因となった断層は、陸と海の境目付近の直下であり、半島側の地盤が、海側の地盤に乗り上げるようにずれることで、半島北部が隆起したとみられています。

2) 津波

海岸に近い活断層が大きく動いたため、第1波がすぐに到達し、さらに遠浅の地形も影響し、津波が海底で跳ね返るなどして、繰り返し押し寄せました。気象庁の現地調査では、能登町白丸で4.7mの津波の痕跡を確認しています。ただし、半島北岸は隆起によって津波の浸水被害が起きにくかったとも考えられています。

3) 余震

大きな地震は断層の破壊領域が大きいとため、断層面上の様々な場所で余震が起こりました。同日16時12分にマグニチュード5.7の地震（最大震度6弱）、16時18分にマグニチュード6.1の地震（最大震度5強）、6日23時20分にマグニチュード4.3の地震（最大震度6弱）、9日17時59分にマグニチュード6.1の地震（最大震度5弱）が発生するなど、令和6年3月末までの間に、最大震度1以上を観測した地震は1,772回発生しています。

1-3 地震による能登町の被害状況

令和7年1月31日時点の町内の被害状況を整理しました。被害箇所数や被害額は、査定に基づき整理しています。

(1) 人的被害

死者		負傷者		計
直接死	災害関連死	重傷	軽傷	
2人	51人	29人	25人	107人

(2) 家屋被害

	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	計
住家	263棟	104棟	175棟	705棟	1,088棟	3,423棟	5,758棟
非住家	1,159棟	245棟	389棟	2,093棟	548棟	2,965棟	7,399棟

(3) 公共土木施設被害

被害状況	● 道路	被災路線数 455 路線	被害額 253.0 億円
	● 河川	— (豪雨災害に統合)	
	● 砂防	被害箇所数 2 箇所	被害額 1.0 億円
	● 橋梁	被害箇所数 21 橋	被害額 20.1 億円



(4) 農林水産業被害

被害状況	● 農地	件数 161 件	被害額 12.2 億円
	● 農業用施設	件数 344 件	被害額 103.2 億円
	● 営農飲雑用水	件数 3 件	被害額 0.4 億円
	● 林道	被災路線数 38 路線	被害額 12.1 億円
	● 治山	件数 26 件	被害額 10.3 億円
	● 漁港	被災漁港数 10 漁港	被害額 46.7 億円



(5) ライフライン被害

被害状況	● 上水道	修繕箇所 1,029 件	復旧費 38.7 億円（応急復旧・本復旧合計）
	● 公共下水	被災延長 19.0km	被害額 52.0 億円
	● 農集排	被災延長 35.5km	被災額 31.0 億円
	● 漁集排	被災延長 1.2km	被害額 3.4 億円
	● 浄化槽	被災数 183 基	被災額 5.0 億円

(6) 上水道被害

被害状況	● 6,220 戸断水（5月2日全解除）
------	----------------------

(7) 津波被害（※ 国土交通省調べ 速報値）

被害状況	● 浸水面積 約 63ha（松波～内浦長尾、宇出津 等）
------	--



(8) 火災被害

発生地区	覚知時刻	死傷者	焼損棟数	焼損床面積数
白丸地区	1月1日 22:16	なし	11 棟	1,727 m ²

(9) 集落被害

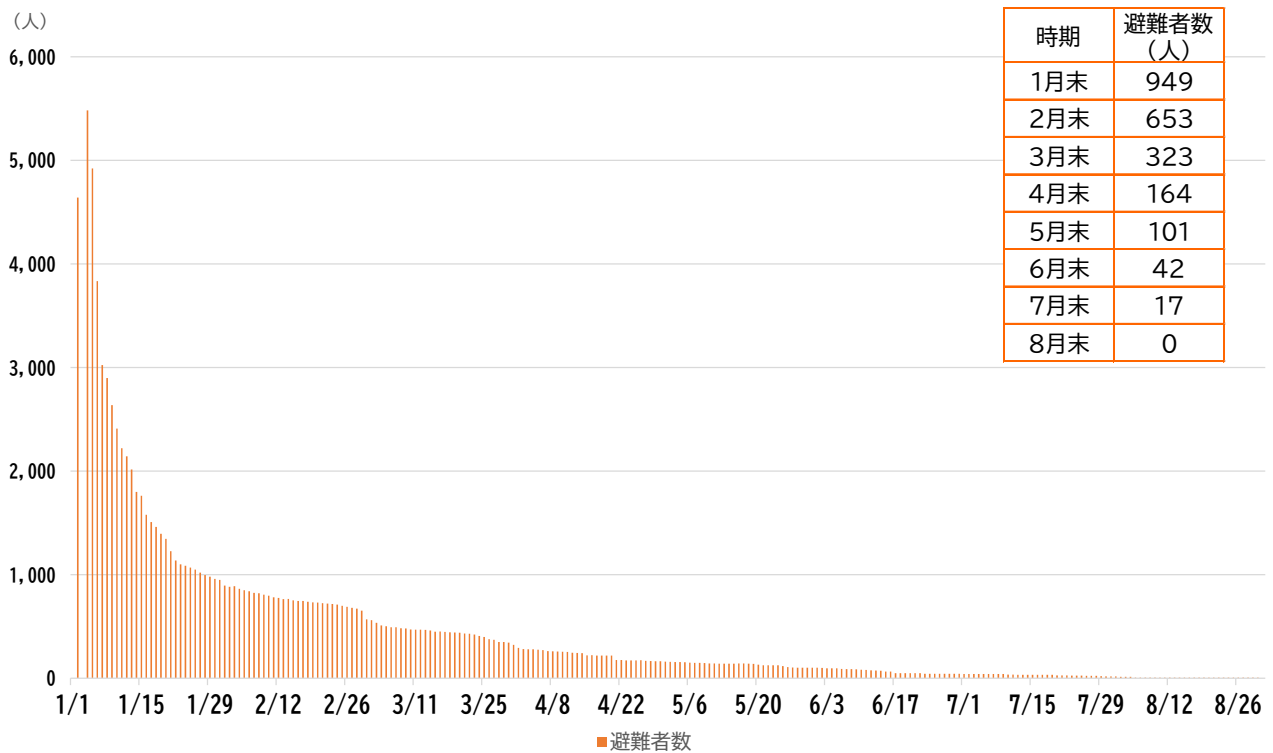
孤立集落	北河内地区	（1月5日道路啓開のため解消）
	桐畑地区	（1月5日道路啓開のため解消）
	十郎原地区	（1月5日道路啓開のため解消）
	田代地区	（1月5日避難完了のため解消）
	水滝地区	（1月17日避難完了のため解消）
	柳田信部	（1月17日避難完了のため解消）

1-4 応急・復旧活動

(1) 避難所の開設状況

開設状況

- 町内避難所 72 カ所、最大避難者 5,481 人（1 月 4 日）
- 8 月 31 日避難所閉鎖

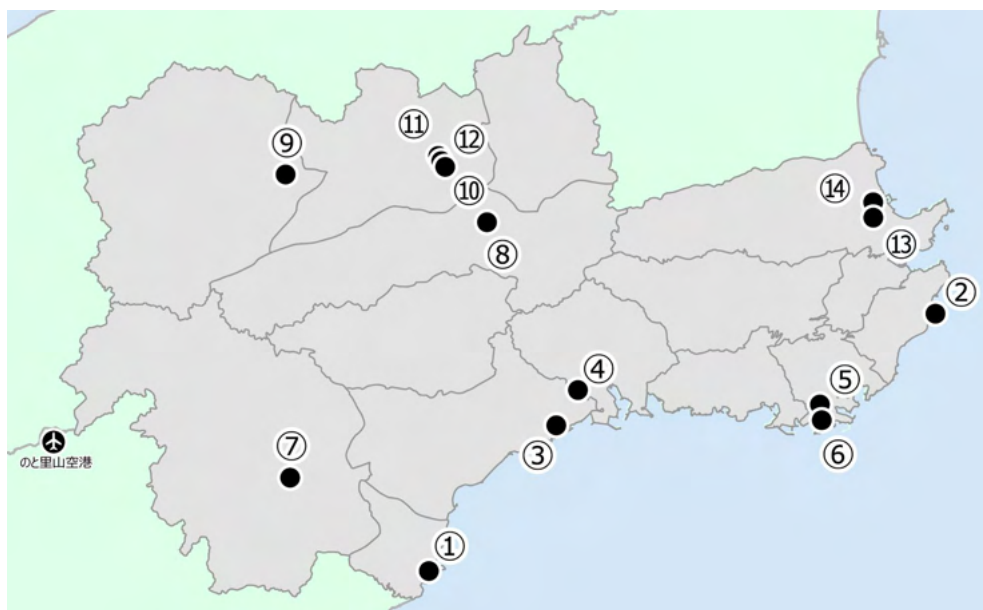


(2) 応急仮設住宅の整備

整備状況	● 応急仮設住宅（建設型） 全 14 団地等 571 戸整備 ● 賃貸型応急住宅（みなし仮設住宅） 延べ 238 戸入居
------	---



No.	応急仮設住宅名	建設戸数(戸)	No.	応急仮設住宅名	建設戸数(戸)
①	うかわ団地	81	⑨	いわいど団地	22
②	しろまる団地	42	⑩	やなぎだ第 1 団地	38
③	ふじなみ第 1 団地	123	⑪	やなぎだ第 2 団地	20
④	しあけがおか団地	30	⑫	やなぎだ第 3 団地	3
⑤	おぎ第 1 団地	26	⑬	まつなみ第 1 団地	76
⑥	おぎ第 2 団地	40	⑭	まつなみ第 2 団地	22
⑦	みずほ団地	12	—	その他	2
⑧	かんまち団地	34	計		571



(3) 文教施設（仮設校舎・体育館）の整備

整備状況	● 松波小学校仮設校舎、仮設体育館の整備
------	--



(4) 自治体からの支援

支援内容	発災直後から対口支援や姉妹都市等、全国の多くの自治体からご支援いただきました。 ● 対口支援 滋賀県、和歌山県、茨城県、宮城県、岩手県 ● 姉妹都市 千葉県流山市、宮崎県小林市、長野県信濃町
------	---

(5) 寄付金・義援金等（令和7年1月31日時点） ※ 豪雨災害と合算

支援内容	● ふるさと納税災害支援寄付金 793,718 千円（代理受付団体 24 自治体） ● 緊急災害支援企業版ふるさと納税 227,230 千円（124 件） ● 町災害義援金（豪雨災害と合算） 710,578 千円（累計 4,676 件）
------	--

<救助・救出活動の様子>



<医療チームによる支援の様子>



<応急給水活動の様子>



<災害ボランティア活動の様子>



<情報共有会議の様子>



1-5 令和6年奥能登豪雨の概要

令和6年9月20日頃から日本海から東北地方付近に前線が停滞し、台風第14号から変わった低気圧の影響により、石川県では21日午前中に線状降水帯が発生しました。この線状降水帯による集中豪雨が原因により、輪島市、珠洲市及び能登町に大雨特別警報が発表され、河川の氾濫や土砂崩れが発生し、甚大な被害がもたらされました。

- <発生地> 石川県能登半島北部
- <大雨特別警報発表地域> 輪島市、珠洲市、**能登町**
- <発生時期> 令和6年9月21日から令和6年9月23日
- <避難指示> 全域（9月21日10:50）7,047世帯 14,776人
解除（9月23日10:45）

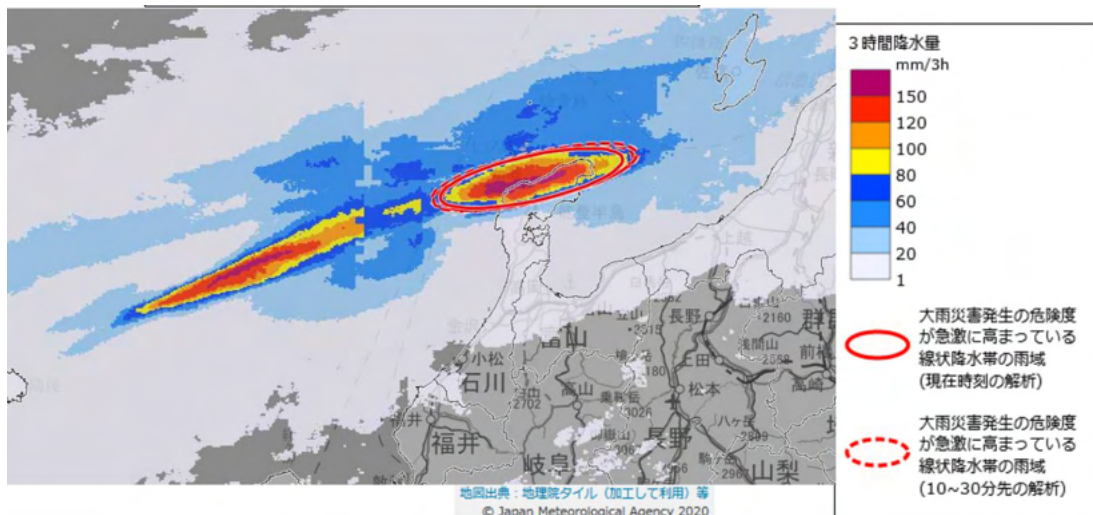


図 1-2 2024年9月21日時点3時間降水量

出典：国土交通省

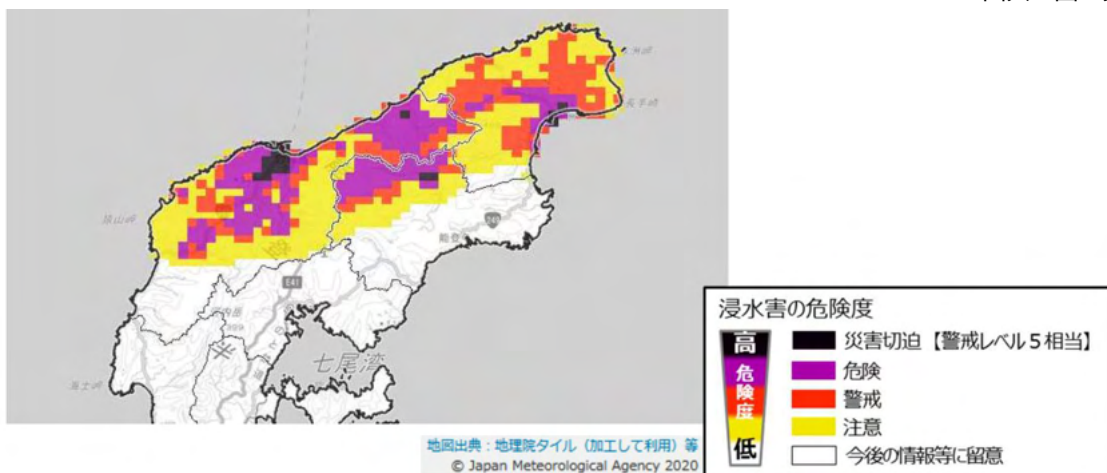


図 1-3 2024年9月21日時点浸水害危険度分布

出典：国土交通省

1-6 奥能登豪雨による能登町の被害状況

令和7年1月31日時点の町内の被害状況を整理しました。被害箇所数や被害額は、査定に基づき整理しています。

(1) 人的被害

死者	負傷者		計
	重傷	軽傷	
2人	2人	1人	5人

(2) 家屋被害

	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	計
住家	-	-	-	6棟	-	32棟	38棟
非住家	10棟	4棟	2棟	1棟	1棟	13棟	31棟

(3) 公共土木施設被害等

被害状況	● 道路 被災路線数 1路線 被害額 0.15億円 ● 河川 被災河川数 13河川 被害額 13.4億円
主な氾濫河川	● 二級河川：町野川、山田川、上町川、神野川、梶川、九里川尻川 ● 普通河川：波並川、寺分川、日詰脇川
断水	● 断水 最大 640戸 ● 営農飲雑用水 鮭尾 22戸（27日17時復旧） ● 給水場設置（9月23日～10月6日）
停電	● 最大 230戸



(4) 農林水産業被害

被害状況	● 農地	件数 80 件	被害額 30.3 億円
	● 農業用施設	件数 131 件	被害額 28.4 億円
	● 営農飲雑用水	件数 1 件	被害額 0.1 億円
	● 林道	被災路線数 9 路線	被害額 2.3 億円
	● 治山	件数 9 件	被害額 0.7 億円



(5) 集落被害

孤立集落	北河内地区	(9月26日 11:00 道路啓開のため解消)
	田代地区	(9月23日 18:00 避難完了のため解消)
	桐畑地区	(9月22日 18:00 道路啓開のため解消)



(6) 避難所開設・避難者数

避難所開設	18 箇所【9月21日～10月25日】
最大避難者数	168 人

2 復興に向けたこれまでの取組

2-1 復興まちづくり意見交換会

本町の復興に向け、復興まちづくり意見交換会を 15 回実施し、延べ 564 人が参加しました。

表 復興まちづくり意見交換会の実施概要

日時		地区	会場	参加者数
5/17 (金)	10:00～11:30	瑞穂	瑞穂公民館	43 名
	14:00～15:30	神野	神野公民館	38 名
	18:30～20:00	高倉	高倉公民館	34 名
5/18 (土)	18:30～20:00	宇出津	役場 2 階大集会場	68 名
5/20 (月)	14:00～15:30	不動寺・秋吉	内浦総合支所会議室	26 名
	18:30～20:00	松波	内浦総合支所会議室	47 名
5/21 (火)	14:00～15:30	上町	上町公民館	31 名
	18:30～20:00	柳田	柳田公民館	37 名
5/22 (水)	14:00～15:30	小間生	小間生公民館	15 名
	18:30～20:00	小木	小木地域交流センター	44 名
5/23 (木)	14:00～15:30	岩井戸	岩井戸公民館	19 名
	18:30～20:00	白丸	白丸公民館	53 名
5/24 (金)	10:00～11:30	三波	三波公民館	21 名
	18:30～20:00	鵜川	鵜川小学校体育館	66 名
5/25 (土)	13:30～15:00	町外に避難されている方	石川県地場産業振興センター	22 名
合計		—	—	564 名

<宇出津地区>



<神野地区>



能登町復興まちづくり意見交換会の様子

2-2 住民が意見を出せる場所づくり

(1) SWOTボードの設置

本町の現状を把握するため、町の強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）の4区分に分け、訪れた人が自由に意見を書けるボードを役場内に設置しました。

■意見数（令和6年11月21日時点）

強み（Strengths）	56件	弱み（Weaknesses）	32件	
機会（Opportunities）	65件	脅威（Threats）	29件	計182件



(2) SWOTの成果の活用

記入された意見をもとに復興推進委員会各部会でワークショップを行い、10年後のつくりたい能登町の未来について検討を行いました。

また、寄せられた意見は、復興計画の策定にあたり方向性や取組の検討に生かしました。



2-3 復興まちづくり対話会

本町の復興に向け、まちの未来について話し合う復興まちづくり対話会「のと未来カイギ」を実施しました。

表 復興まちづくり対話会の実施概要

名称/場所	日時	対話のテーマ	参加者数
第1回のと未来カイギ @大屋根広場「みなとのニワ」	7/14（日） 14:00～17:00	・私たちのほしい未来 ・私たちだけからできること ・持ち帰りたい気づき	18名 ※中高生対象
第2回のと未来カイギ @星の観察館「満天星」	8/11（日） 14:00～17:00	・震災後の暮らしの中で足りないもの/残したいものは何か ・新しく作りたいもの/必要なものを考える	26名

<第1回 のと未来カイギ>



<第2回 のと未来カイギ>



のと未来カイギの様子

2-4 復興推進委員会・部会

復興計画の策定に向け、復興推進委員会及び部会を開催しました。

表 復興推進委員会・部会の実施概要

委員会 部会		日時	実施概要
復興推進委員会	第1回	5/16（木）15:00～16:30	復興計画の策定について
	第2回	5/28（火）15:00～16:10	- 復興計画（素案）について - 住民アンケート調査項目について
	第3回	8/29（木）15:30～17:00	復興計画（中間案）について
	第4回	12/26（木）13:30～15:30	復興計画（最終案）について
	第5回	2/13（木）13:30～15:30	- パブリックコメントについて - 復興計画の策定について
復興推進委員会・部会	第1回	産業・経済復興部会 6/19（水）13:30～15:30 すまいと暮らしの再建・安全な地域づくり部会 6/20（木）14:00～16:00	- SWOT（能登町の強み弱み・機会・脅威）から考える - 発災後の対応を何もしなかったまちの未来を考える 10年後のつくりたいまちの未来を考える
	第2回	7/25（木）13:30～15:30	「つくりたいまちの未来」を考える 「つくりたいまちの未来」の中から大切な項目や重要な項目を選ぶ 10年後に実現するために具体的に必要なもの（リソース）を考える
	第3回	10/1（火）13:30～15:30	復興プロジェクト等の創出について
	第4回	12/5（木）13:30～15:30	復興計画（最終案）たたき台について

<復興推進委員会>



<復興推進委員会・部会>



復興推進委員会・部会の様子

2-5 令和6年能登半島地震復旧・復興本部会議

年度	回数	実施日	実施概要
令和5年度	第1回	3/15（金）	● 基本理念について
令和6年度	第1回	5/16（木）	● 復興計画の策定スケジュールについて ● 基本方針について
	第2回	5/29（水）	● 復興計画（素案）について
	第3回	6/14（金）	● 復興計画策定にかかる今後のスケジュール等について ● 復興に向けた「庁内プロジェクトチーム」の設置について ● 被災者支援連絡会議について
	第4回	7/31（水）	● 復興計画（中間案）たたき台について
	第5回	8/29（木）	● 復興計画（中間案）について
	第6回	9/30（月）	● 復興計画策定に向けたスケジュール変更について
	第7回	10/28（月）	● 復興計画（最終案）たたき台の作成に向けて
	第8回	11/29（金）	● 復興計画（最終案）たたき台について
	第9回	12/26（木）	● 復興計画（最終案）について
	第10回	1/29（水）	● 復興計画（最終案）について ● 地区別復興まちづくり計画について
	第11回	2/13（木）	● パブリックコメントについて ● 復興計画の策定について

2-6 令和6年能登半島地震復旧・復興連絡協議会

年度	回数	実施日	実施概要
令和6年度	第1回	4/17（水）	● 各課局の現状・今後の予定等について ● 復興計画の策定スケジュールについて
	第2回	5/10（金）	● 各課局の現状・今後の予定等について ● 復興計画の策定等について ● 議会からの協議について
	第3回	6/3（月）	● 各課局の現状・今後の予定等について ● 復興計画の策定等について
	第4回	8/27（火）	● 各課局の現状・今後の予定等について ● 東日本大震災・熊本地震における被災地視察について ● 復興計画（中間案）について
	第5回	12/24（火）	● 各課局の現状・今後の予定等について ● 復興計画（最終案）について

9/19（木） 議会から町に「能登半島地震からの復興に向けた提言書」を提出



復旧・復興連絡協議会の様子



議会からの提言書 提出

2-7 アンケート調査

(1) 町民アンケート調査

復興計画の策定にあたり、町民の想いや考えを反映した計画とするため、全町民を対象としたアンケート調査を実施しました。

表 町民アンケート調査の概要

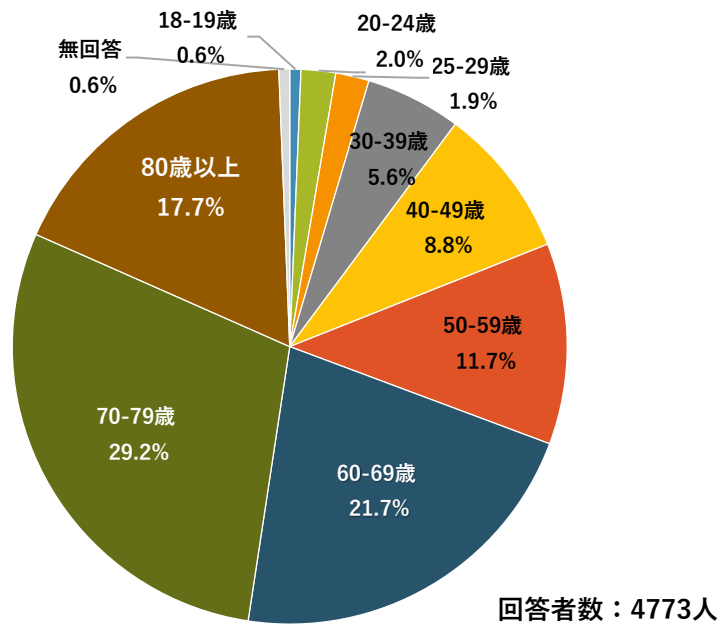
調査期間	令和6年6月25日（火）～7月19日（金）
配布数	令和6年1月1日時点で能登町にお住まいの18歳以上の町民（13,764名）
調査項目	○個人属性 ○住まいについて ○仕事について ○能登町の将来について ○能登町の良いところ、自慢できること ○避難行動について ○復興に向けた計画づくりなどの意見・要望
回答数・回収率 （12/31時点）	回答数：4,773部（郵送回収：4,250部、Web：回収：523部） 回収率：34.6%
結果概要	1. ご自身について ・年代は60歳以上が68.7%を占め、高齢者の割合が高い。 ・能登町での居住年数は、「30年以上」が79.3%となっている。 2. お住まいについて ・今後の居留意向として、震災前と別の場所（町内または町外）を希望する町民の割合は15.1%となっている。「わからない」は11.9%となっている。 ・震災前と別の場所に住みたい理由としては、「地震・津波・土砂災害が心配」が54.9%で最も高く、次いで「買い物や生活が不便」が48.3%の順となっている。 3. お仕事について ・震災による仕事への影響としては「施設や設備等の被害」が54.7%で最も高く、次いで「事業の縮小や収入の減少」が34.3%の順である。 ・町内で事業再開する上での課題について、「事業の後継者がいない」が30.9%で最も高く、「新たな設備投資が必要になる」が26.4%である。 4. 能登町の将来について ・これからのくらしで不安に感じることで、「余震や二次災害の発生」が67.3%で最も高く、次いで「将来的に大きな災害が起きる可能性」が63.3%の順となっている。 ・復興計画の5本の柱に沿った関心事項は以下のとおりである。 ① インフラの早期再生と強靱化：「道路の早期復旧」が64.0%で最も高く、次いで「上下水道の早期復旧」が28.1%の順である。

結果概要	②くらしと地域コミュニティの再建：「公費解体の早期処理」が32.2%で最も高く、次いで「住宅の耐震化支援、宅地の復旧支援」が26.1%の順である。 ③生業の再建：「事業再開に向けた支援」が19.4%で最も高く、次いで「漁業の振興」が13.3%の順である。 ④安心してくらし続けられるまちづくり：「被災者への経済的支援（支援金、義援金、給付金等）」が41.2%で最も高く、次いで「保健、医療体制の充実」が18.0%の順である。 5. 能登町の良いところ・自慢できるところ ・「自然が豊か・美しい景観がある（845件）」「食べ物が美味しい（500件）」「人が優しい（272件）」「祭りや伝統文化がある（250件）」「地域の結びつきが強い（184件）」といった意見が多くあげられた。 6. 避難行動について ・全体の67.2%が「避難した」と回答した。 ・避難しなかった／できなかった理由としては「自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから」が54.3%で最も高く、次いで「避難場所までの移動が困難だったから」が11.1%の順となっている。
-------------	---

1. あなたご自身のことについて

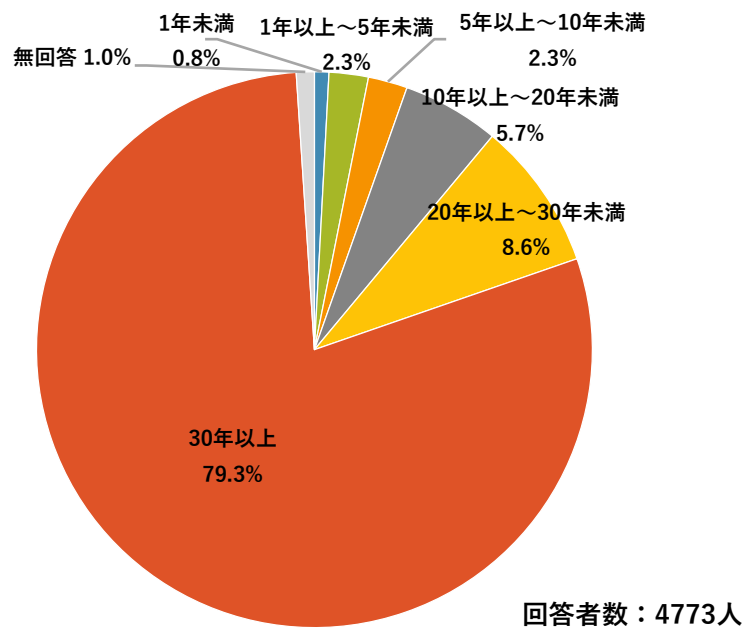
あなたの年齢を教えてください。

年齢は、20代以下が4.6%、70歳以上が約半数であった。



令和6年1月1日時点で、あなたは能登町に通算何年住んでいましたか。

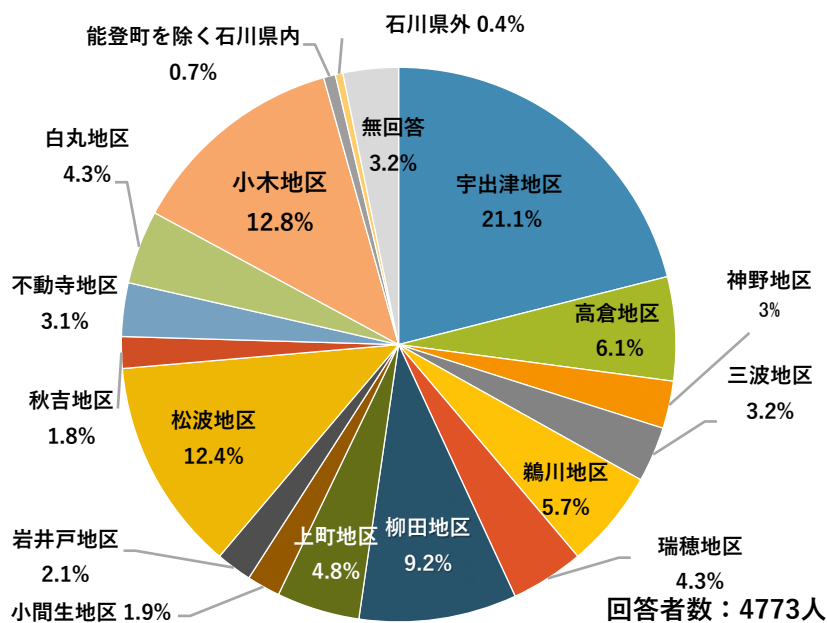
能登町の居住年数は、「30年以上」が最も多く、79.3%であった。



2. あなたのお住まいについて

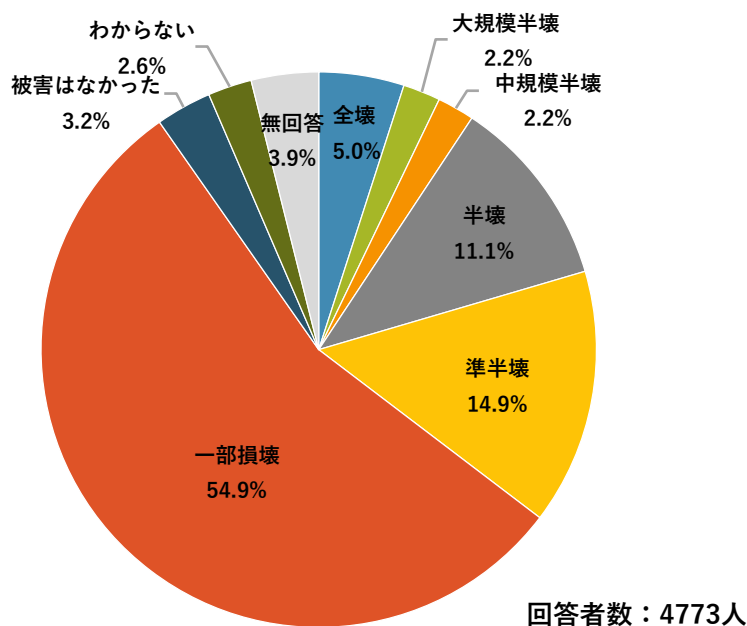
あなたの震災前の居住場所を教えてください。

「宇出津地区」が21.1%で最も高く、次いで「小木地区」が12.8%の順となっている。



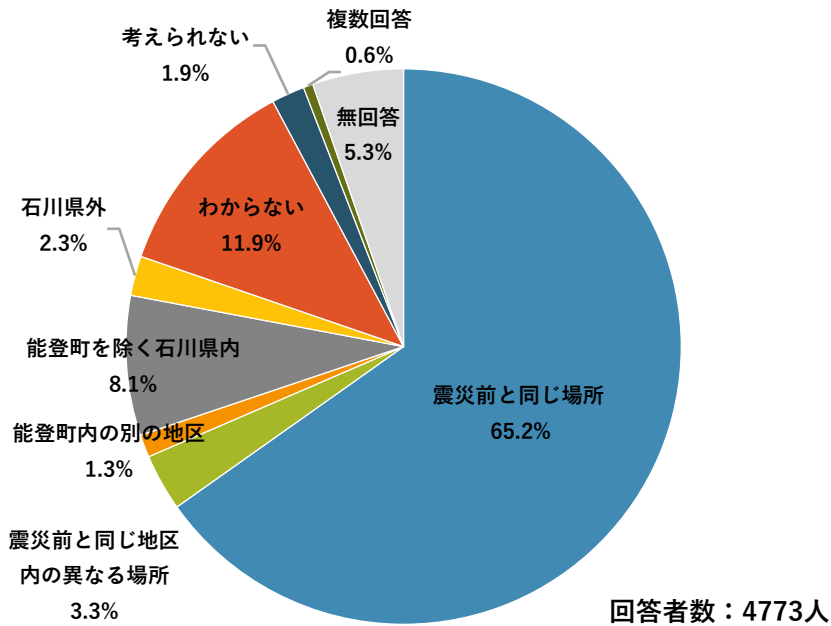
あなたのご自宅の被災状況を教えてください。

「一部損壊」が54.9%で最も高く、次いで「準半壊」が14.9%の順となっている。



あなたは今後、どこに住みたいと思いますか。

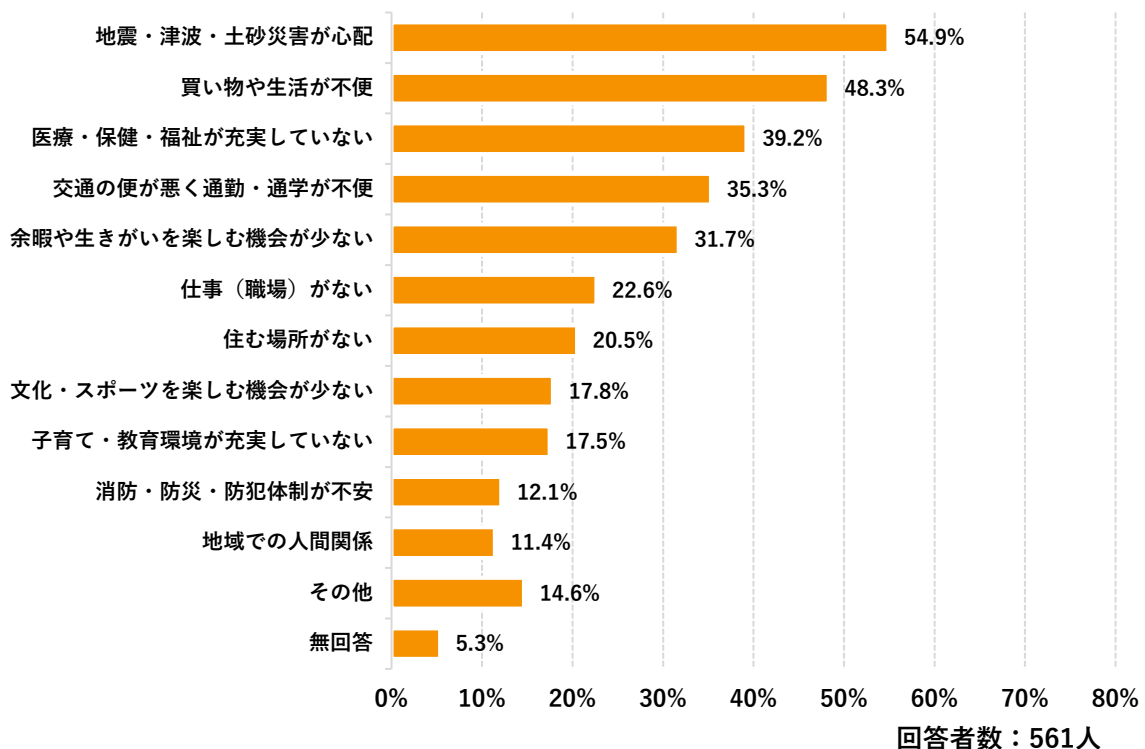
「震災前と同じ場所」が65.2%で最も高く、次いで「わからない」が11.9%の順となっている。



上記で「3. 能登町内の別の地区」「4. 能登町を除く石川県内」「5. 石川県外」とお答えになった方におたずねします。

あなたが震災前に居住していた地区から移転したい・移転した理由を教えてください。

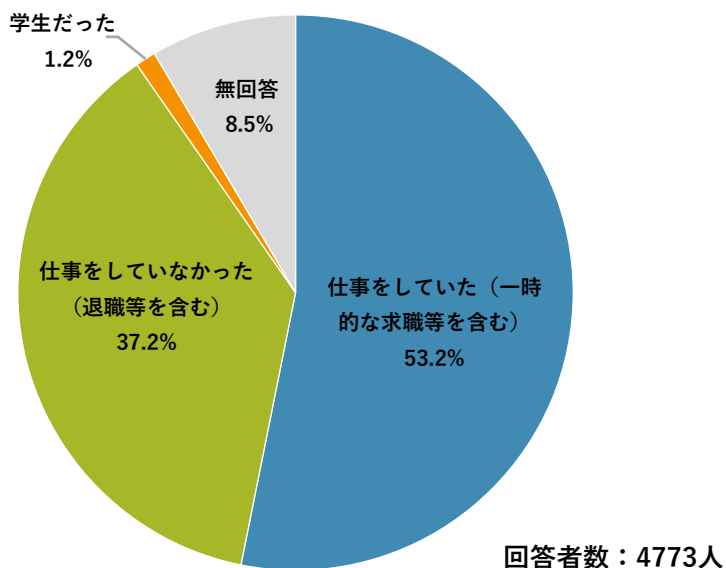
「地震・津波・土砂災害が心配」が54.9%で最も高く、次いで「買い物や生活が不便」が48.3%の順となっている。



3. あなたのお仕事について

震災前（令和5年12月時点）に、あなたはお仕事をされていましたか。

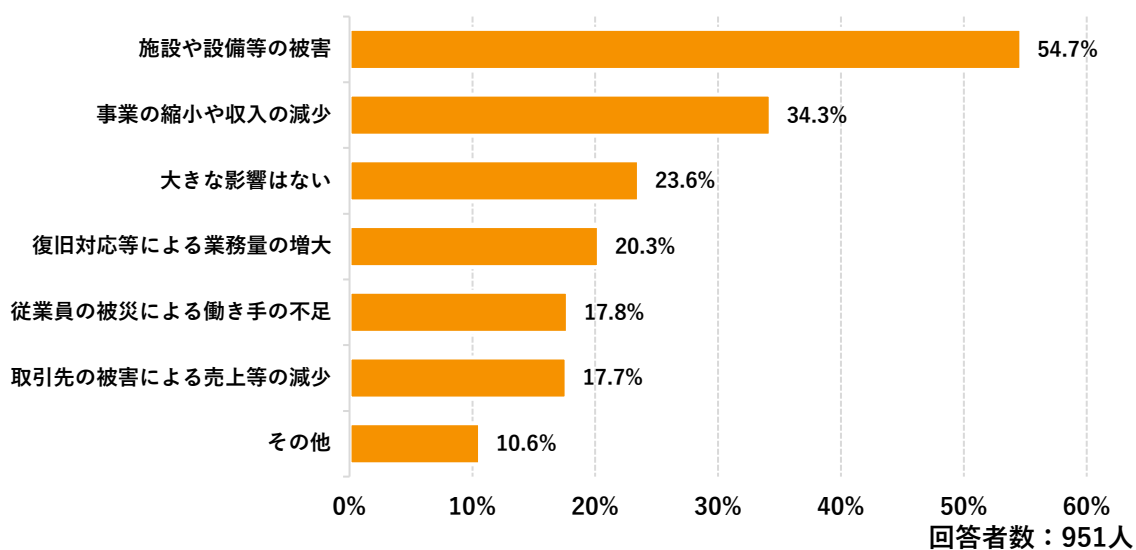
全体の53.2%が「仕事をしていた（一時的な休職等を含む）」、37.2%が「仕事をしていなかった（退職等を含む）」となっている。



以下、震災前（令和5年12月時点）に、能登町内で自営業・農林水産業を営んでいた方におたずねします。

あなたの震災前の仕事の被害・影響について教えてください。

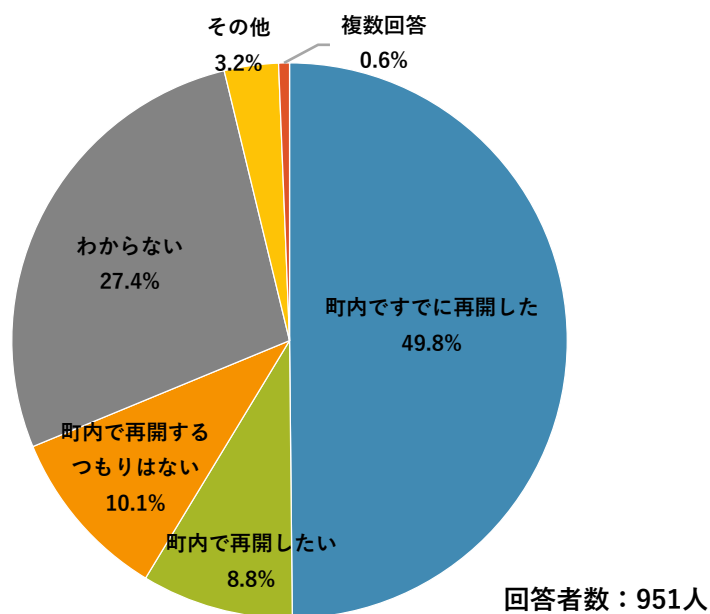
「施設や設備等の被害」が54.7%で最も高く、次いで「事業の縮小や収入の減少」が34.3%の順となっている。



2 復興に向けたこれまでの取組

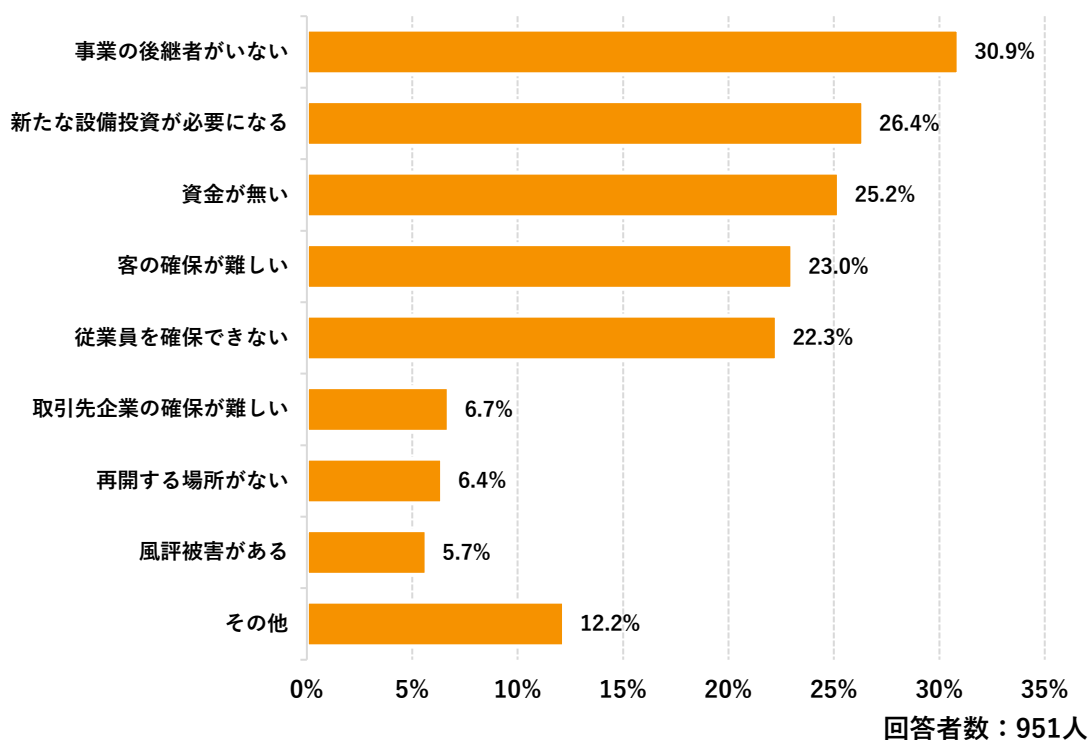
能登町内で事業を再開したいと思いますか。

「町内ですでに再開した」が49.8%で最も高く、次いで「わからない」が27.4%の順となっている。



能登町内で事業再開するうえでの課題は何ですか。

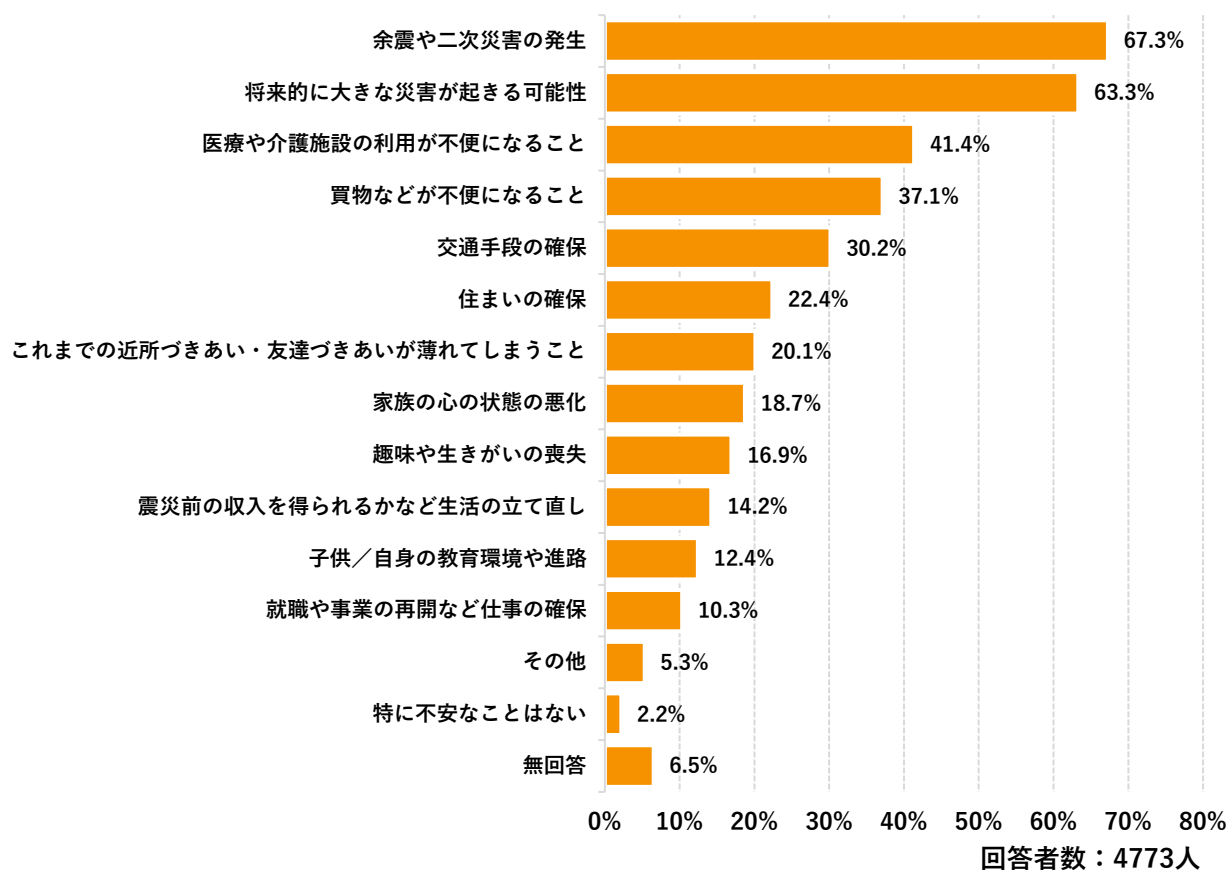
「事業の後継者がいない」が30.9%で最も高く、次いで「新たな設備投資が必要になる」が26.4%の順となっている。



4. 能登町の将来について

これからの暮らしについて不安に感じることはありますか。

「余震や二次災害の発生」が67.3%で最も高く、次いで「将来的に大きな災害が起きる可能性」が63.3%、「医療や介護施設の利用が不便になること」が41.4%の順となっている。

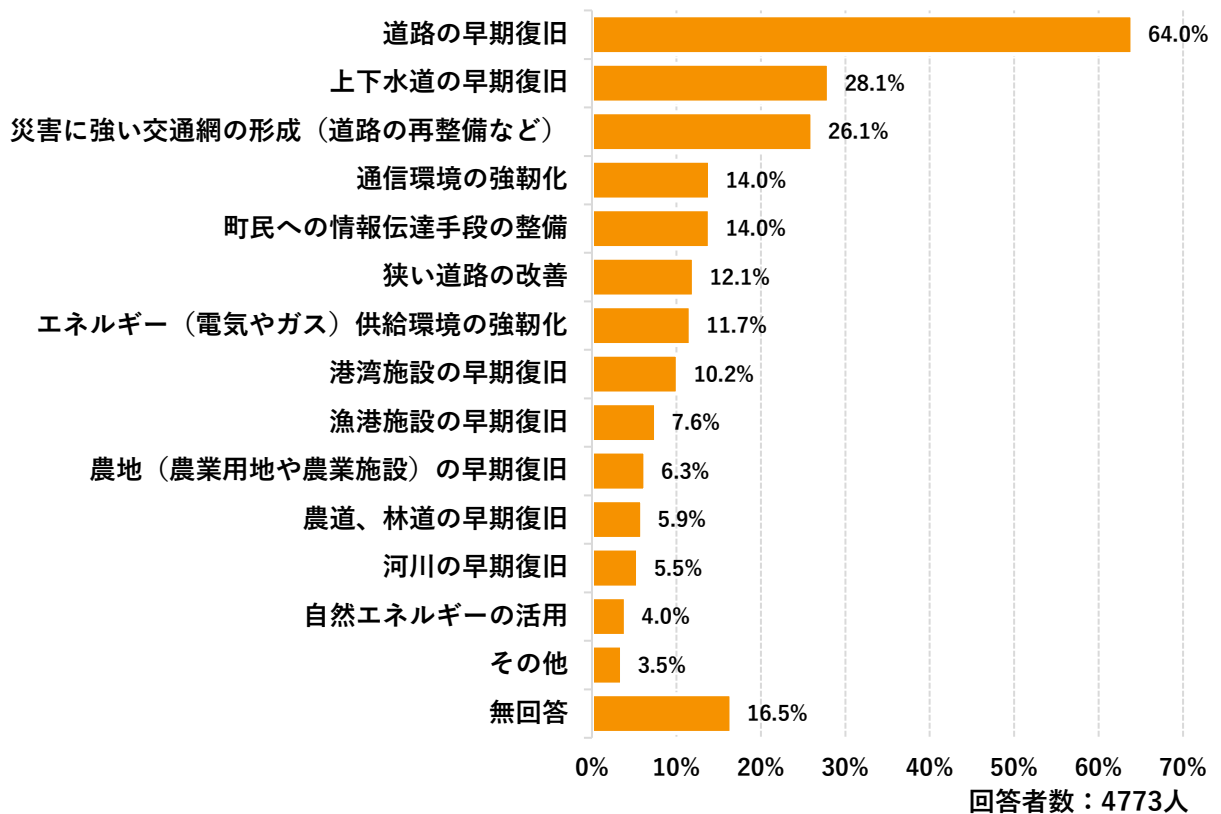


2 復興に向けたこれまでの取組

現在、能登町では復興に向けて、「①インフラの早期再生と強靱化」「②くらしと地域コミュニティの再建」「③生業(なりわい)の再建」「④安心してくらし続けられるまちづくり」「⑤復興プロジェクトの創出」の5本の柱で施策の検討を進めています。以下のア)～エ)の質問にお答えください。その際、一覧の中で、あなたが関心をお持ちの事項は何ですか。3つまで選んで「番号記入欄」に数字をご記入の上、それぞれについて、理由を右の枠内にご記入ください。

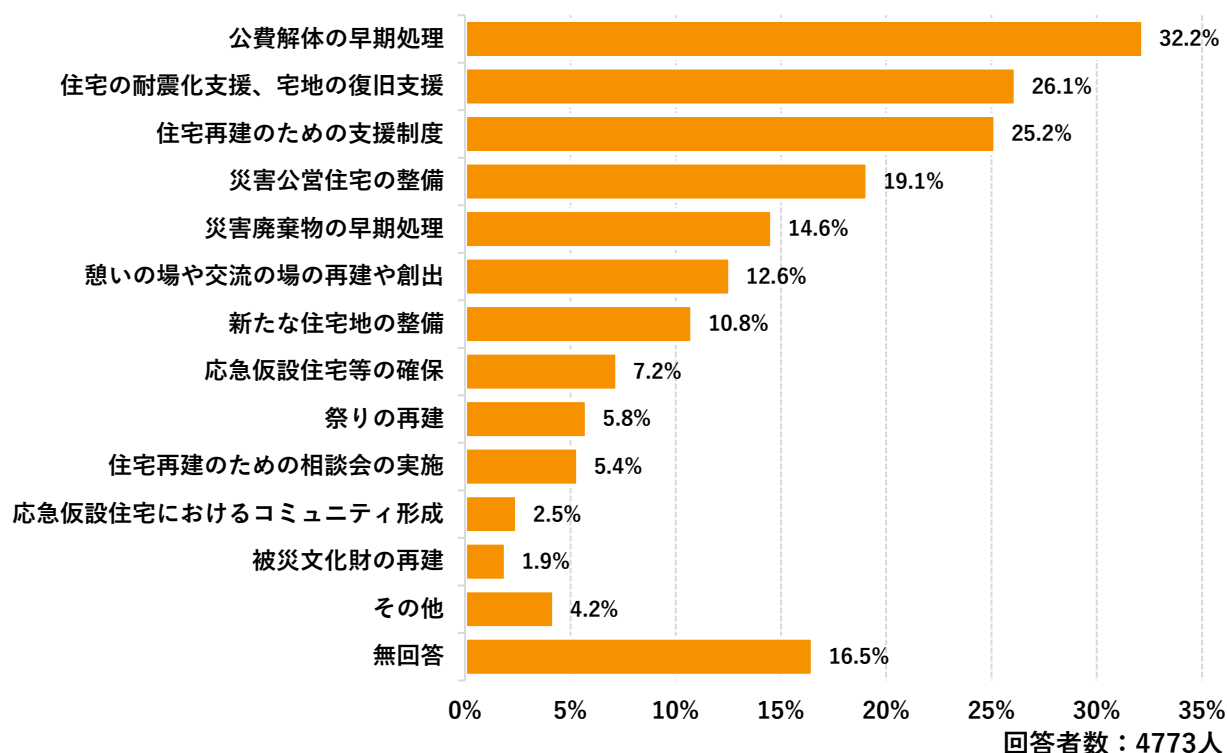
ア)「①インフラの早期再生と強靱化」

「道路の早期復旧」が64.0%で最も高く、次いで「上下水道の早期復旧」が28.1%の順となっている。



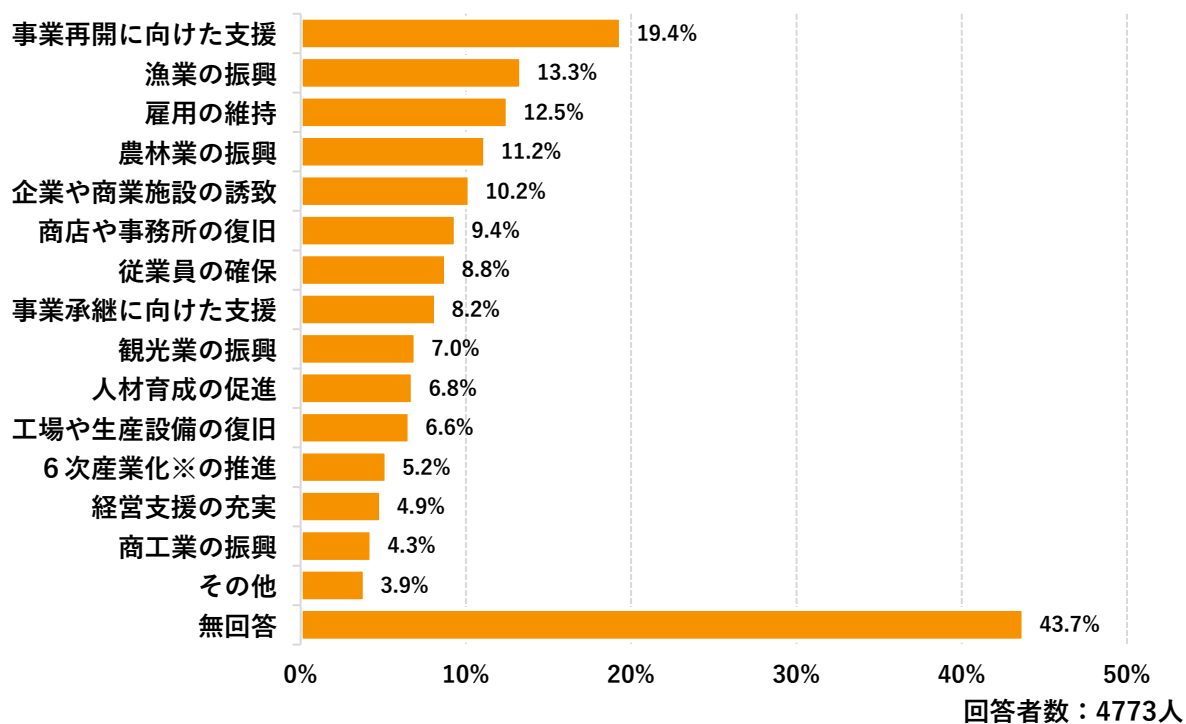
イ) 「②くらしと地域コミュニティの再建」

「公費解体の早期処理」が 32.2%で最も高く、次いで「住宅の耐震化支援、宅地の復旧支援」が 26.1%の順となっている。



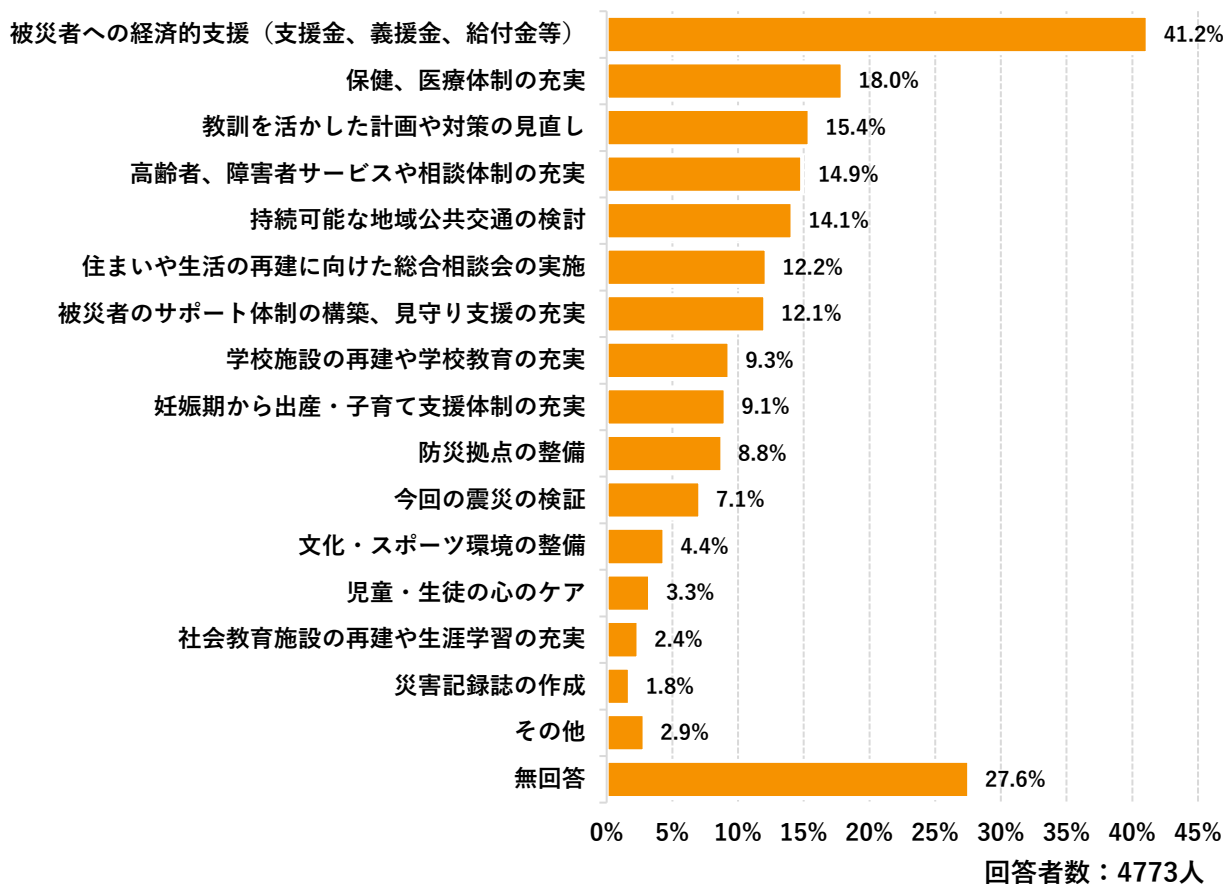
ウ) 「③生業(なりわい)の再建」

「事業再開に向けた支援」が 19.4%で最も高く、次いで「漁業の振興」が 13.3%の順となっている。



エ)「④安心して暮らし続けられるまちづくり」

「被災者への経済的支援（支援金、義援金、給付金等）」が41.2%で最も高く、次いで「保健、医療体制の充実」が18.0%の順となっている。



5. 能登町の良いところ、自慢できること

<主なご意見>

■自然が豊か・美しい景観がある

- ・ 自然が多く海も山もあり、星空もある。自然に近い場所で子育てしたいと思っている世代にはとても良い環境だと思う。
- ・ ゆたかな自然。東京から戻ってきましたが、すばらしい自然に毎日癒やされています。
- ・ 自然が豊かな所だと思います。海も山もあり、現在も住んでいる人は環境を自慢すると思います。町外の方もうらやましがかる点です。
- ・ 日本の原風景が残っている。人の手入れが程々に入っている自然(畑や田んぼに癒されます。)

■観光資源が豊富

- ・ イカの駅つくモールと遊覧船
- ・ 観光スポットが多い。
- ・ 桜の時期は矢波～波並の海岸通りはすばらしい。
- ・ 柳田温泉

■祭りや伝統文化がある

- ・ 江戸時代始め古い文化が引き継がれているところ
- ・ 他では見られない独特の祭り文化
- ・ 日本一の祭りがあり、すばらしい自然がある所
- ・ 能登杜氏 キリコ祭 無形文化財あえのこと
- ・ 小さい時から祭りが身近にありました。今でもあばれ祭りは特別です。祭りで友達にも会えるのが楽しみです。

■食べ物が美味しい

- ・ 都会のスーパーではなかなか買えない豊かな食資源があふれている。
- ・ お米やブルーベリー、しいたけ等の特産物も増えてきて、少しずつ有名になってきた。
- ・ 農作物や魚がどこにも負けないくらい豊富で美味しい。強みだと思います。
- ・ 海鮮類のおいしさ。石川県のイカは本当においしい。自慢出来る。
- ・ 海産物のおいしいところ。ブリ、ブルーベリー、のとキリシマなど良いものが多い。

■静かでのんびりとした環境

- ・ 時間がゆったりと流れているように感じる環境
- ・ 自然環境など子供達を伸び伸び育てるのに適している。

■人が優しい・地域の結びつきが強い

- ・ おせっかい過ぎる程にやさしい方が多いと思います。
- ・ 人がやさしく、交流が気軽にできるところです。
- ・ 能登人の人柄つながりを大事にし、辛抱強く生きる日々から自然と出る笑顔が外部の人から見ても魅力なようです。
- ・ 希薄な人間関係では得られない人間らしい人との交流

- ・ 人と人のつながり、地域や町内の結束力

■災害時の助け合いがある

- ・ 苦しい状況にいても助け合い、支え合い、前を向こうとされている。
- ・ 互助力の素晴らしさ、震災後、避難をしたが近所の方々との連絡をとりながら能登へ戻る準備を進めることができた。
- ・ 私の町内の若い人達が大きい声をかけてくれて、何しとる、早く避難所に行かんと津波がくると言って手をひっぱってくれました。

■住みやすさ

- ・ 歩いて店や施設へ行ける（コンパクトに生活が出来ること）。
- ・ 街に出かけて楽しいけれどそのうち飽きる、疲れる。でも能登にいと気持ち落ち着きます。
- ・ 台風もおとろえて来るし、水害も九州地方の様にひどくない。寒さも北海道に比べて、半分以上。という事で気候的に住みやすい。

■インフラ

- ・ 都会にアクセス出来る空港、道路があること
- ・ 他の市町よりインフラが強化されている。他市町からも居住したい声は沢山あります。

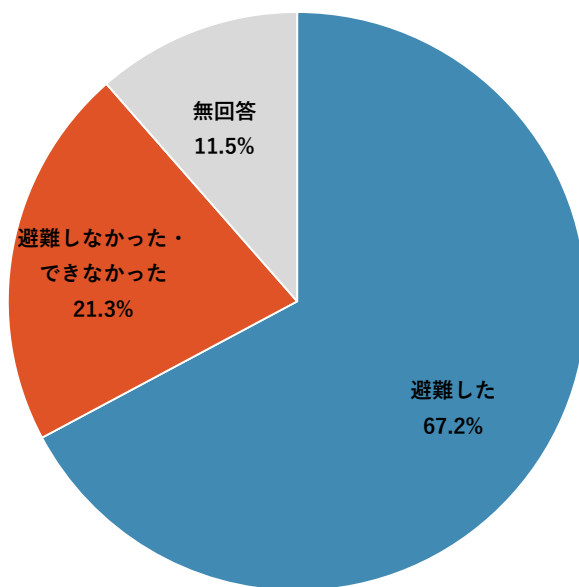
■その他のご意見

- ・ イカの駅つくモールをもう1度 早期復旧出来れば良い。
- ・ 能登町はインパクト的には漁業の町だと思います。ブリ、イカは全国的に有名ですし、世界農業遺産の一部にもなっています。

6. あなたの避難行動について

地震発生後に避難をしましたか。

全体の 67.2%が「避難した」、21.3%が「避難しなかった・できなかった」となっている。

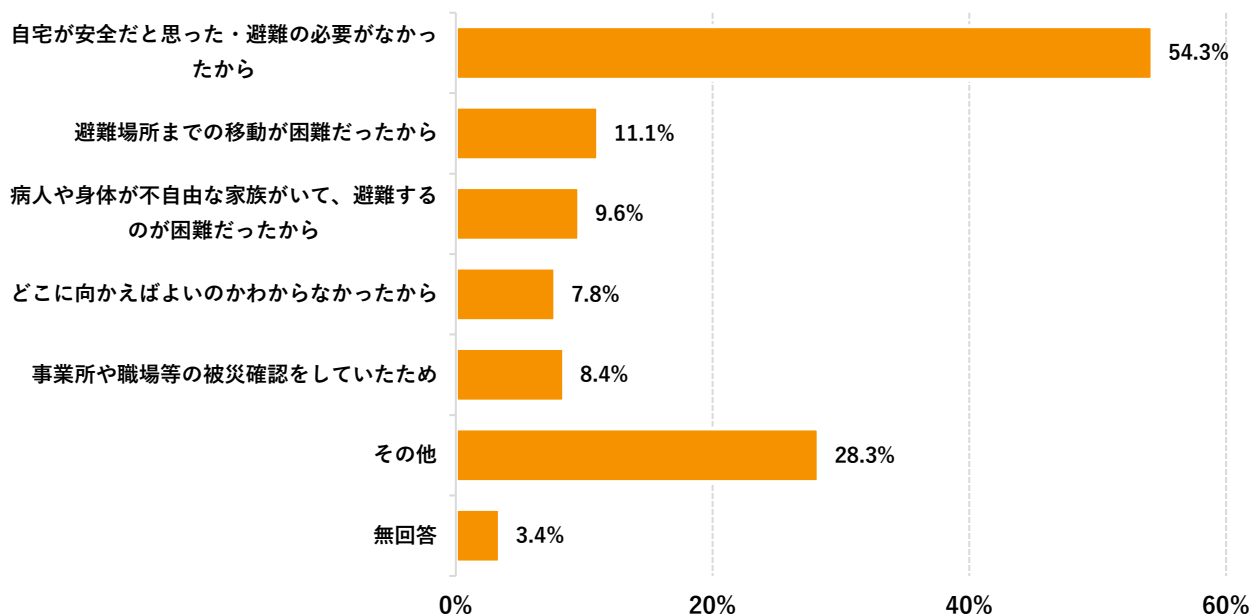


回答者数：4773人

上記で「2. 避難しなかった・できなかった」と回答した方におたずねします。

避難しなかった・できなかった理由は何ですか。

「自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから」が 54.3%で最も高く、次いで「避難場所までの移動が困難だったから」が 11.1%の順となっている。



回答者数：1019人

(2) 次世代アンケート調査

復興計画の策定にあたり、今後の復興において本町の将来を担う中高生の皆さんの想いや考えを反映した計画とするため、本町内外に通学する中高生を対象とした次世代アンケート調査を実施しました。

表 次世代アンケート調査の概要

調査期間	令和6年7月4日（木）～8月19日（月）
配布数	能登町内外に通学する全中高生（中学生：213名、高校生：337名）
調査項目	○個人属性 ○将来のイメージ ○能登町の将来 ○能登町の復興 ○町長になったら取り組むこと
回答数・回収率 （8/19時点）	【中学生】回答数：206名 回収率：96.7% 【高校生】回答数：135名 回収率：40.1%
結果概要	1. あなた自身について ・震災前の居住地区は、能登町内では、「宇出津地区」、「柳田地区」、「小木地区」の順に多かった。 ・現在の住まいは、自宅（震災前と同じ）が最も多かった。 2. 将来のイメージについて ・大学進学時は能登町外に居住したい（金沢市、東京都等）という回答が多く挙げられた。理由としては、「行きたい学校が地区外にあるから」という回答が大多数を占めている。 ・就職時に能登町以外に住みたいと考える理由として、「新しい環境・生活にチャレンジしたいから」、「将来やりたい仕事（職場）が地区外にあるから」、「東京、大阪、金沢など都市に憧れがあるから」、「日常生活が不便だから」が4割程度と多く挙げられた。なお、中学生は、新しい環境や都市への憧れ、高校生は、職があり子育て環境が整ったところに住みたいことが多く挙げられた。 3. 能登町の将来について ・能登町の好きなところ、魅力に感じるところ、自慢できるところとして、自然（里海山等）、祭りが多く挙げられた。 ・希望する将来の能登町の姿について、「祭りが受け継がれているまち」が最も多く、次いで「災害への備えが十分になされているまち」が多く挙げられた。 ・興味のある取組について、「高速な通信環境の整備」、「金沢と能登を結ぶ高速交通の実現」が多かった。 ・将来、「能登町外で暮らしつつも、定期的にお祭りなど地元の行事に参加したい」人が最も多かった。 4. 能登町の復興について ・復興において必要だと思うことについて、コンビニをはじめとする店舗の設置や営業時間の延長、道路や交通（バスの本数を増やす等）の整備が多く挙げられた。 ・能登町の復興への関わり方について、「何をしてよいかわからない」が最も多く、それを除くと「地域のボランティア活動に参加したい」、「能登町の同世代と将来の能登町について考えたい」、「学校で友達と将来の能登町について考えたい」の順に多かった。

1. あなた自身のこと

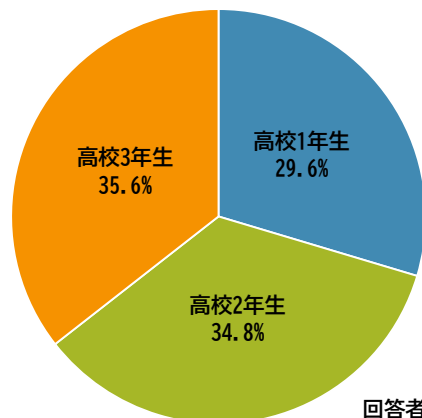
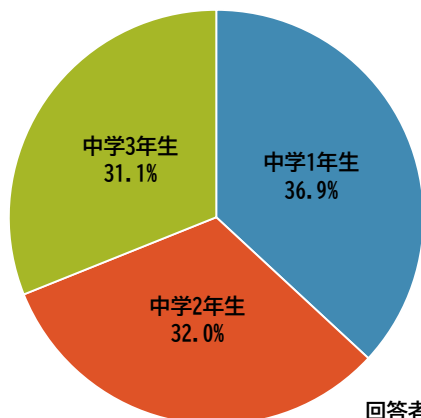
【中学生】【高校生】あなたの学年を教えてください。

【中学生】「中学1年生」が36.9%、「中学2年生」が32.0%、「中学3年生」が31.1%であった。

【高校生】「高校1年生」は29.6%、「高校2年生」は34.8%、「高校3年生」は35.6%であった。

【中学生】

【高校生】



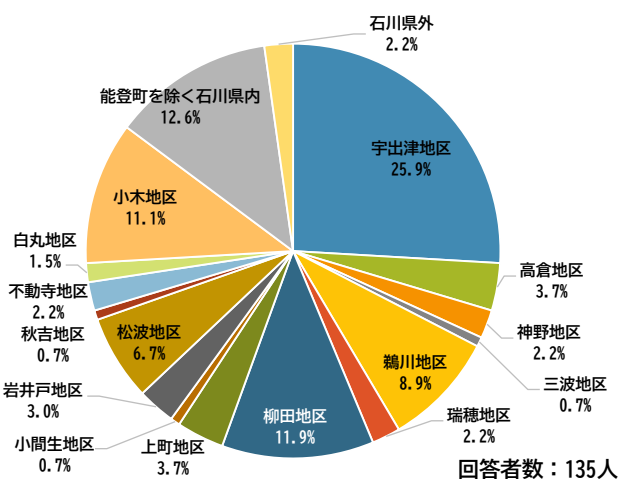
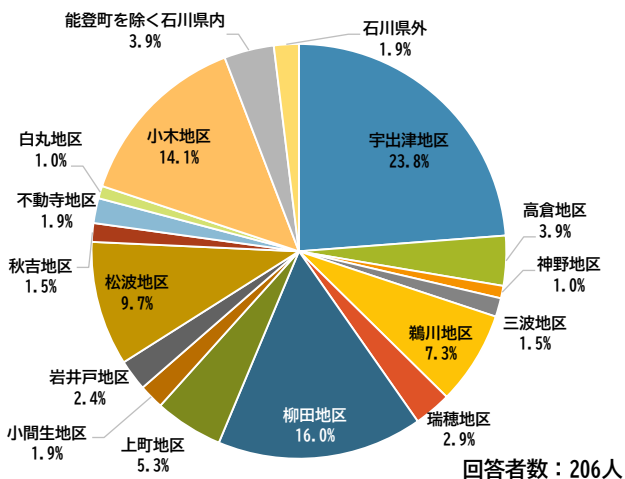
【中学生】【高校生】あなたは震災前にどこに住んでいましたか。

【中学生】震災前の居住地区は、「宇出津地区」が23.8%、「柳田地区」が16.0%、「小木地区」が14.1%、「松波地区」が9.7%であった。

【高校生】震災前の居住地区は、「宇出津地区」が最も多く25.9%であった。

【中学生】

【高校生】

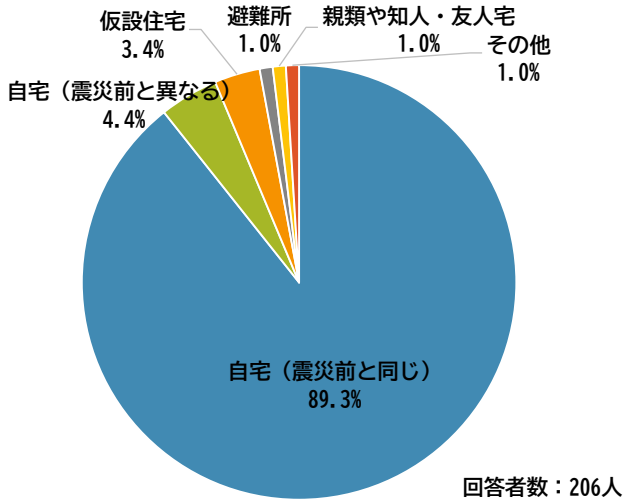


【中学生】【高校生】あなたの現在の住まいを教えてください。

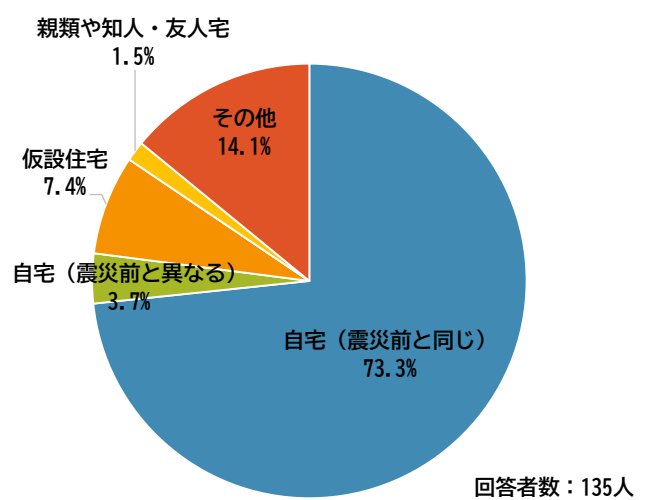
【中学生】現在の住まいは、「自宅（震災前と同じ）」が最も多く 89.3%であった。

【高校生】現在の住まいは、「自宅（震災前と同じ）」が最も多く 73.3%であった。

【中学生】



【高校生】



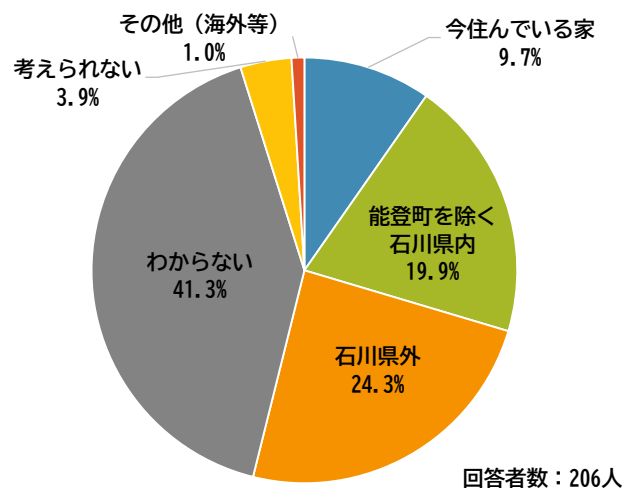
2. あなたの将来のイメージ

【中学生】【高校生】あなたは、就職するとき、どこに住みたいと思いますか。

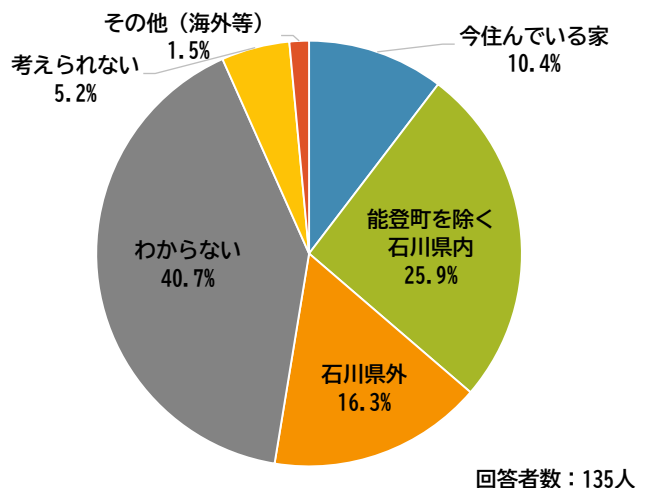
【中学生】就職時に希望する居住地は、「今住んでいる家」が 9.7%、「能登町を除く石川県内」と「石川県外」のいずれかの合計は 44.2%であった。

【高校生】就職時に希望する居住地は、「今住んでいる家」が 10.4%、「能登町を除く石川県内」と「石川県外」のいずれかの合計は 42.2%であった。

【中学生】



【高校生】

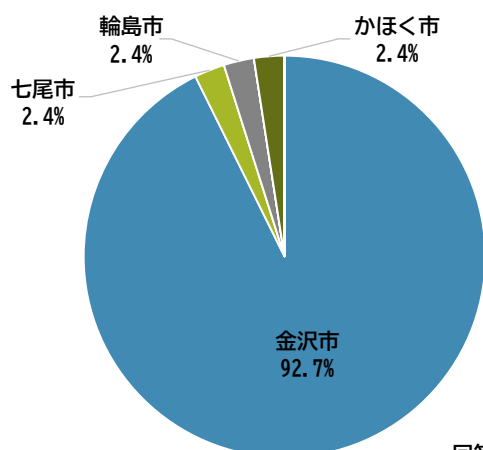


【中学生】【高校生】あなたは、就職するとき、どこに住みたいと思いますか。(市町)

【中学生】就職時に能登町を除く石川県内に住みたい人のうち、92.7%は「金沢市」と回答した。

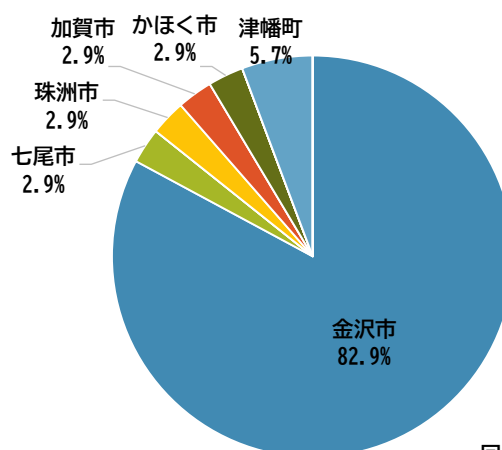
【高校生】就職時に能登町を除く石川県内に住みたい人のうち、82.9%は「金沢市」と回答した。

【中学生】



回答者数：41人

【高校生】



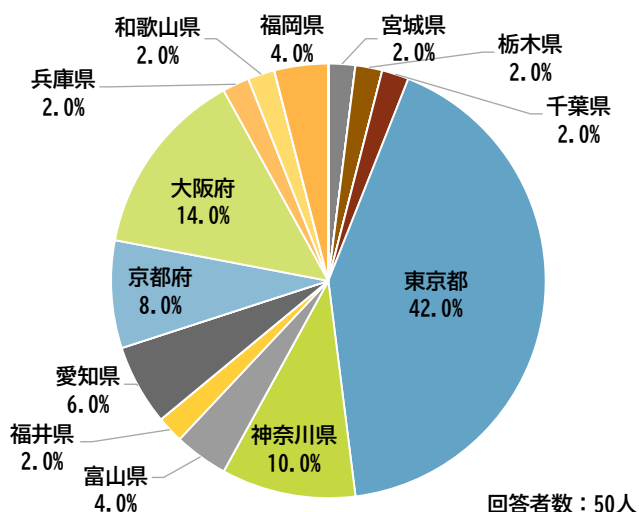
回答者数：35人

【中学生】【高校生】あなたは、就職するとき、どこに住みたいと思いますか。(都道府県)

【中学生】就職時に、石川県外に住みたい人のうち、42.0%は「東京都」、14.0%は「大阪府」、10.0%は「神奈川県」と回答した。

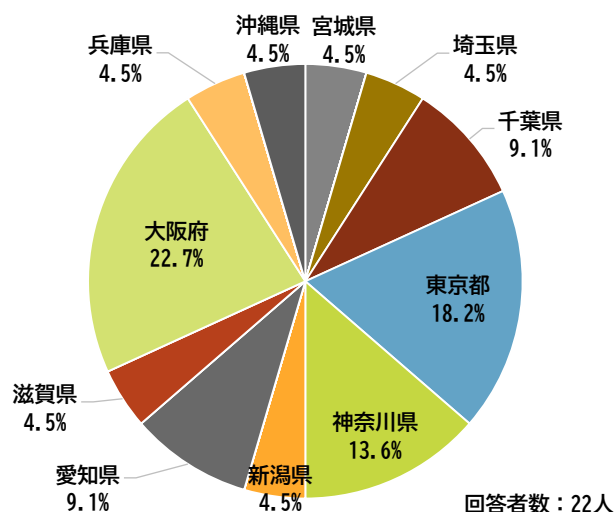
【高校生】就職時に、石川県外に住みたい人のうち、22.7%は「大阪府」、18.2%は「東京都」、13.6%は「神奈川県」と回答した。

【中学生】



回答者数：50人

【高校生】



回答者数：22人

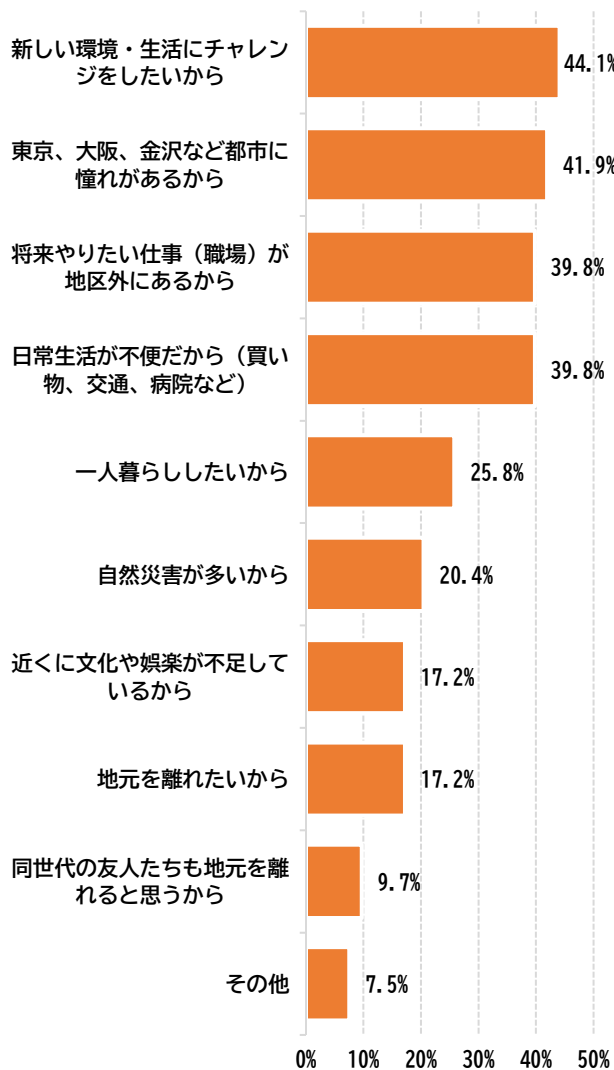
2 復興に向けたこれまでの取組

【中学生】【高校生】上記で「2. 能登町を除く石川県内」「3. 石川県外」「6. その他（海外等）」を選んだ人は、その理由を教えてください。*複数回答可

【中学生】就職時に能登町外以外に住みたい理由は、「新しい環境・生活にチャレンジをしたいから」が44.1%で最も高く、次いで「東京、大阪、金沢など都市に憧れがあるから」が41.9%の順となっている。

【高校生】就職時に能登町外以外に住みたい理由は、「将来やりたい仕事（職場）が地区外にあるから」が49.2%で最も高く、次いで「新しい環境・生活にチャレンジしたいから」が37.3%の順となっている。

【中学生】



回答者数：93人

【高校生】



回答者数：59人

3. 能登町の将来について

能登町の好きなところ、魅力に感じるところ、自慢できるところを教えてください。

【中学生】

能登町の好きなところ、魅力に感じるところ、自慢できるところとして、自然（海、星等）が最も多く挙げた。

<主なご意見>

■祭りや伝統文化がある

- ・ 祭りや輪島塗など伝統文化
- ・ 祭りが楽しい
- ・ 祭りがたくさんあるところ
- ・ あばれ祭りが好きだから
- ・ あばれ祭り最高ー
- ・ 松波人形キリコ祭り

■人が優しい・地域の結びつきが強い

- ・ 明るくて元気で助け合えるところが自慢
- ・ みんな優しい
- ・ 能登は、みんながそれぞれを知っていて、みんなが友達なところが好きです。
- ・ 人との関わりが深い

■食べ物が美味しい

- ・ 美味しい食べ物がたくさんある
- ・ ご飯が美味しい
- ・ 魚が美味しいところ
- ・ ブルーベリー

■住みやすさ

- ・ 治安がいいところ

■自然が豊か

- ・ 自然豊かなところ
- ・ 自然が多い
- ・ 自然がきれい
- ・ ありふれた自然と穏やかさ
- ・ 海がきれいなところ
- ・ 豊かな自然や海がある
- ・ 景色が綺麗
- ・ 空気がきれい
- ・ 星が綺麗
- ・ 自然に囲まれており、虫の鳴き声が聞こえること

【高校生】

能登町の好きなところ、魅力に感じる場所、自慢できる場所として、自然（里山里海等）、祭りが多く挙げた。

<主なご意見>

■祭りや伝統文化がある

- ・ 祭り！！
- ・ あばれ祭りやにわか祭りなどの参加できる祭りがある
- ・ あばれ祭が自慢できる
- ・ 祭りがたくさんあるところ
- ・ 祭りがとても楽しい
- ・ 祭りに関して活発なところ
- ・ まつりなどの伝統文化を大切にして、受け継いでできていること

■人が優しい・地域の結びつきが強い

- ・ いい人達がいっぱいいる
- ・ 地域の輪がしっかりある
- ・ 地域の人とのつながりが強いこと
- ・ 地域の人が温かいところ

■食べ物が美味しい

- ・ 食べ物が美味しい
- ・ 海の幸が美味しい
- ・ 魚などが新鮮
- ・ 水産が盛んなところ
- ・ 魚や山菜などの自然物がおいしいところ

■住みやすさ

- ・ 帰ったら安心できる場所
- ・ 過ごしていて少し安心できる場所
- ・ 犯罪が少ない

■自然が豊か

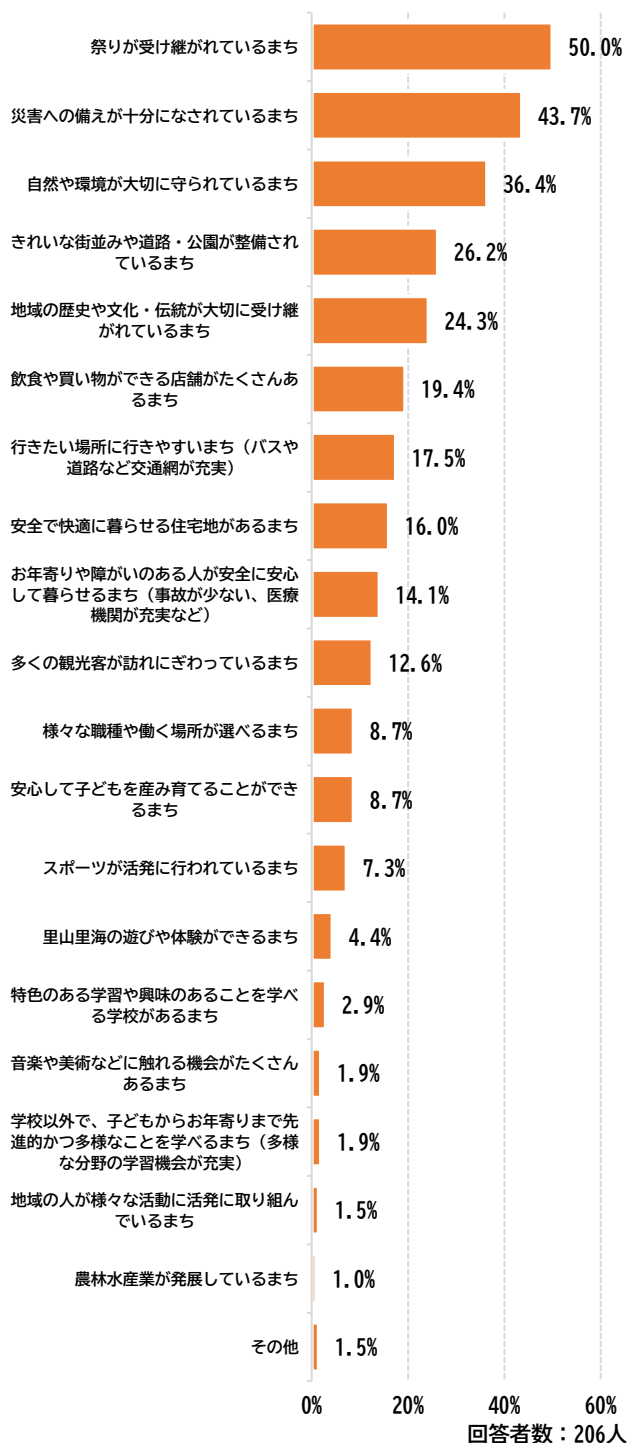
- ・ 自然豊か
- ・ どこよりも自然が豊かできれい
- ・ 里山里海などの自然が身近
- ・ 里山里海が充実
- ・ 山や海などの自然が綺麗
- ・ おだやかな空気と自然が溢れているところ
- ・ 空気が美味しい

あなたが大人になったとき、能登町はどんなまちになっていてほしいですか。3つ選んでください。

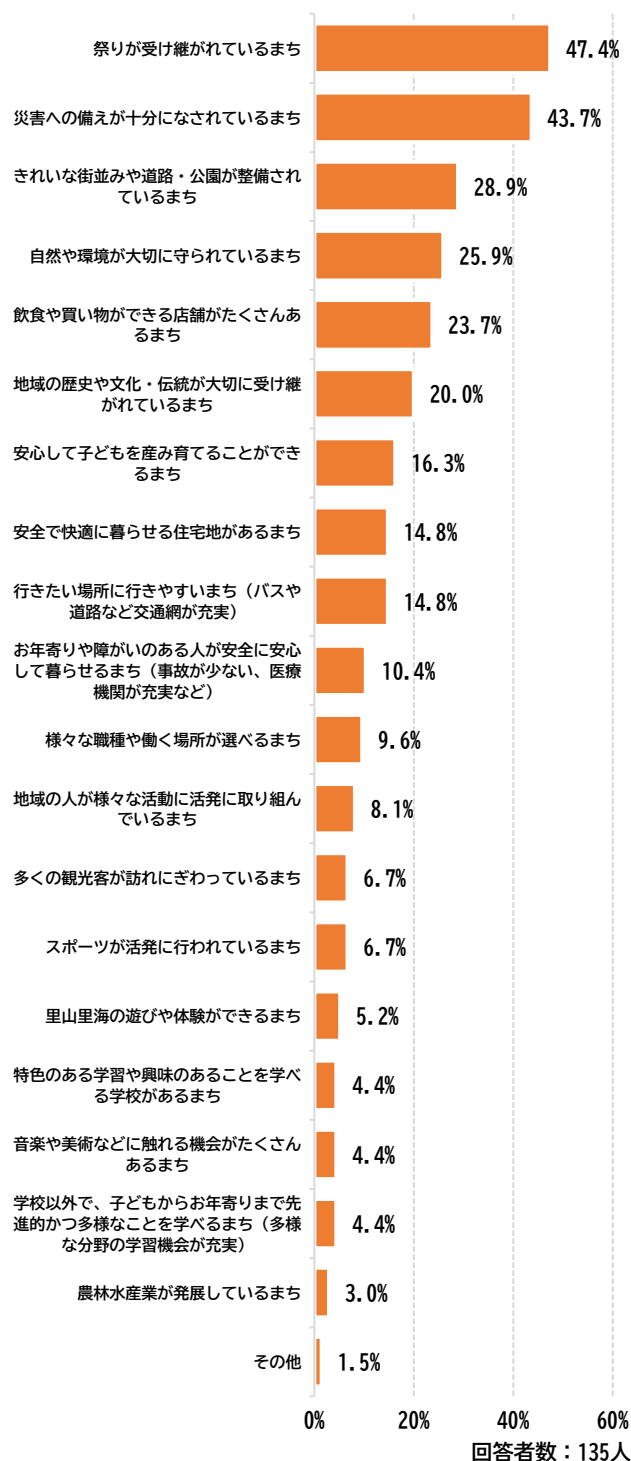
【中学生】希望する将来の能登町の姿について、「祭りが受け継がれているまち」が50.0%で最も高く、次いで「災害への備えが十分になされているまち」が43.7%の順となっている。

【高校生】希望する将来の能登町の姿について、「祭りが受け継がれているまち」が47.4%で最も高く、次いで「災害への備えが十分になされているまち」が43.7%の順となっている。

【中学生】



【高校生】



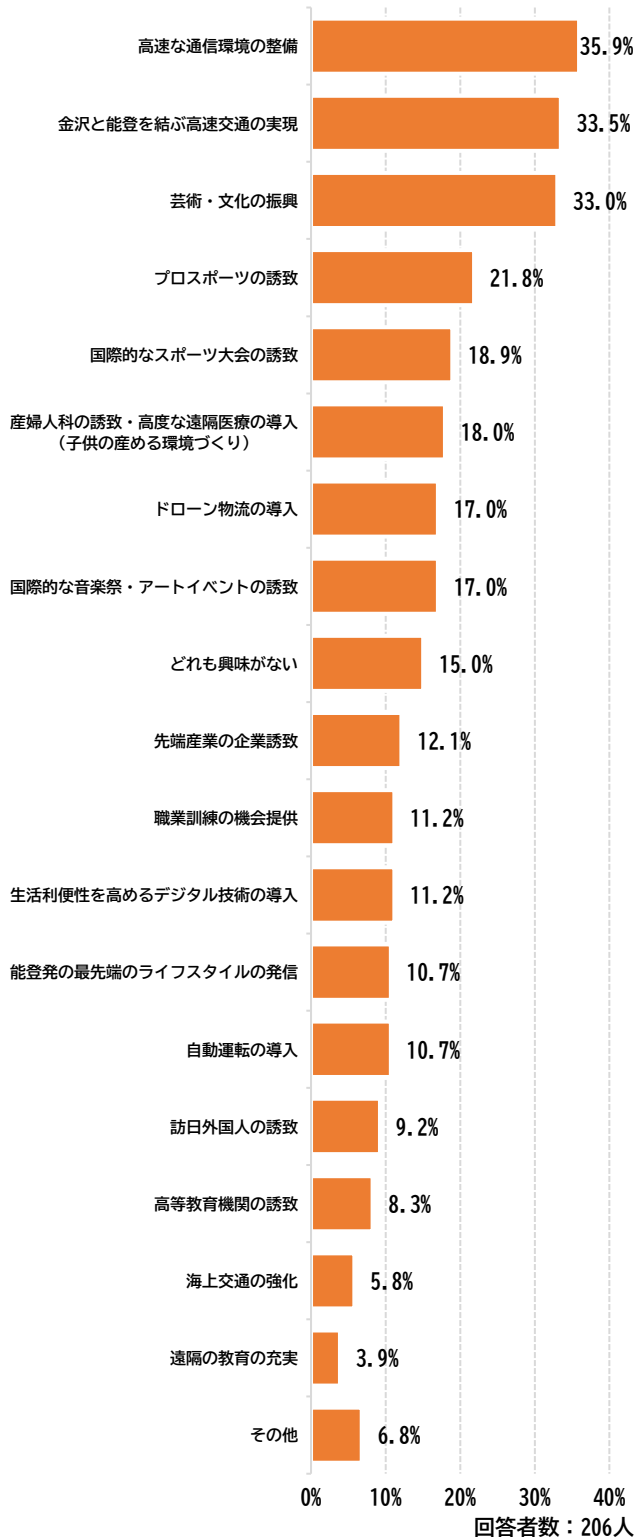
2 復興に向けたこれまでの取組

あなたは、どんな取り組みに興味がありますか。3つ選んでください。

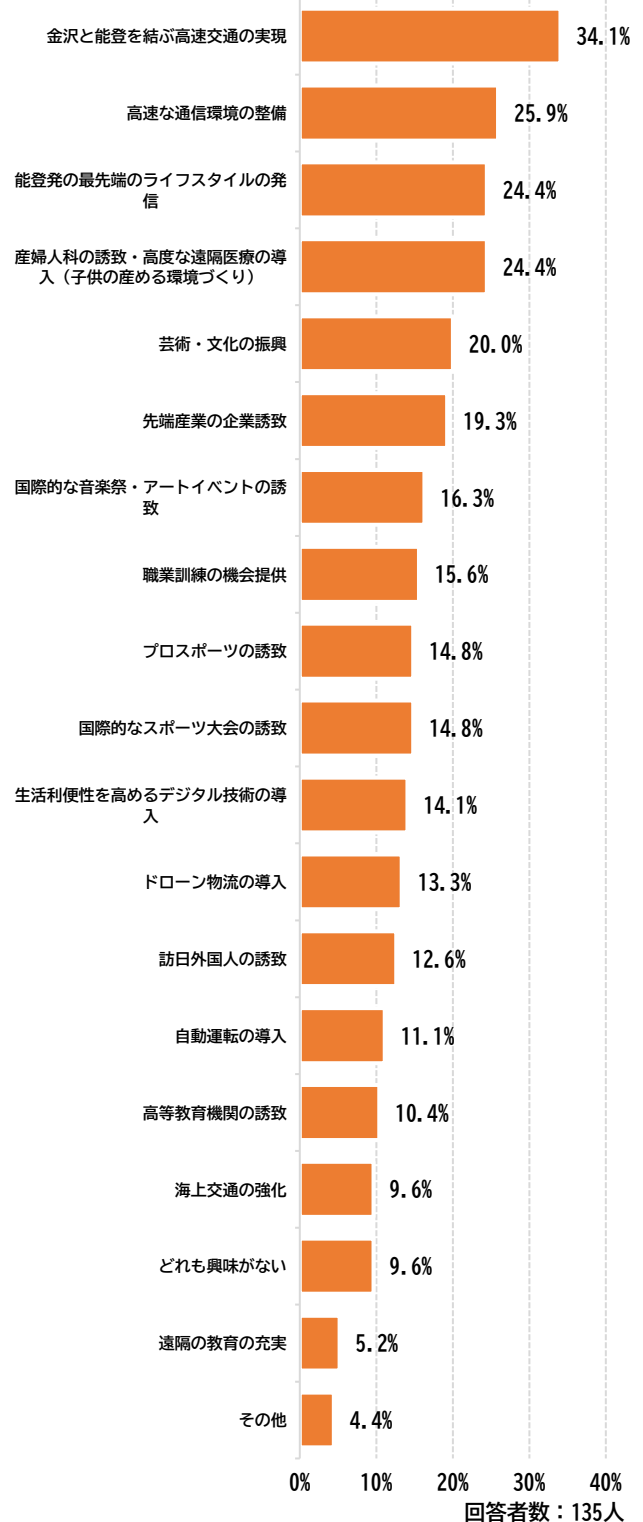
【中学生】興味のある取り組みについて、「高速な通信環境の整備」が35.9%で最も高く、次いで「金沢と能登を結ぶ高速交通の実現」が33.5%の順となっている。

【高校生】興味のある取り組みについて、「金沢と能登を結ぶ高速交通の実現」が34.1%で最も高く、次いで「高速な通信環境の整備」が25.9%の順となっている。

【中学生】



【高校生】

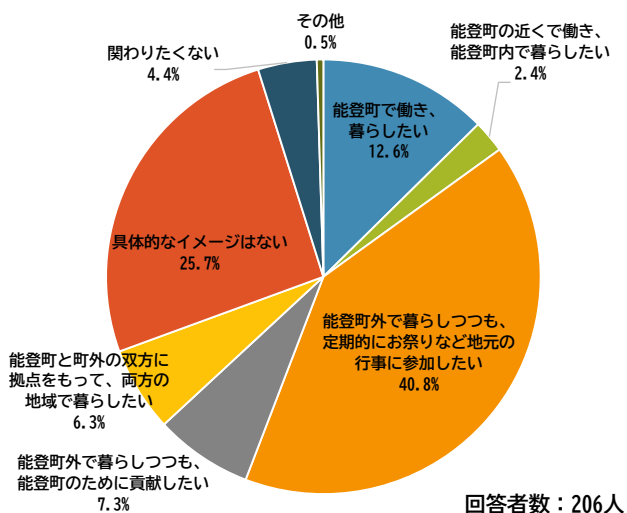


あなたは将来的に能登町にどのように関わっていきたいですか。

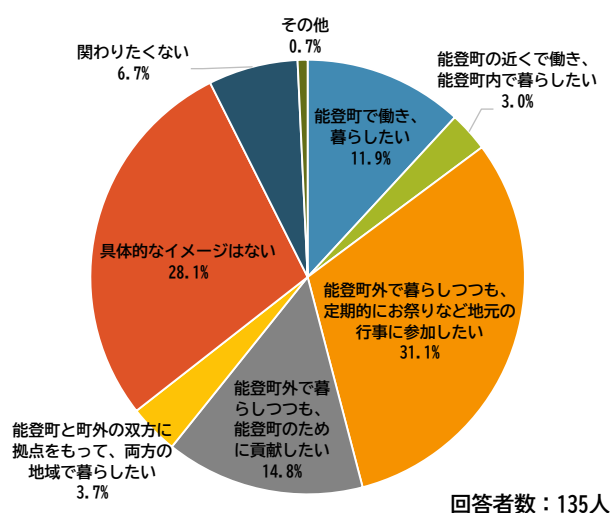
【中学生】 将来、「能登町で働き、暮らしたい」人は12.6%であり、「能登町外で暮らしつつも、定期的にお祭りなど地元の行事に参加したい」人が40.8%と最も多かった。

【高校生】 将来、「能登町で働き、暮らしたい」人は11.9%であり、「能登町外で暮らしつつも、定期的にお祭りなど地元の行事に参加したい」人が31.1%と最も多かった。

【中学生】



【高校生】



4. 能登町の復興について

あなたが能登町の復興において必要だと思うこと、あってほしいことを出来る限り具体的に教えてください。

【中学生】

スーパーやショッピングモール、コンビニ等の店舗、道路や交通の整備が多く挙げた。

<主なご意見>

■ 1. インフラの早期再生と強靱化

- ・ 道路をきれいにしてほしい。
- ・ 道路がまだガタガタなので、早く直してほしい（丁寧に）。

■ 2. くらしと地域コミュニティの再建

- ・ 近くにファーストフード店がほしい。
- ・ 飲食店やお店をもっと建てる。
- ・ スーパーなど色々な物が買えるお店がほしい。
- ・ イオンなどの大きな店があったらいい。
- ・ 衣類などが買えたりする店がほしい。
- ・ 24 時間・震災にあっても開いている頑丈なコンビニ的なお店があったらいいなと思います。
- ・ 近くにコンビニやスーパーをおいてほしい！！
- ・ 金沢に行ける、お金を支払うとき安いバス
- ・ バスやタクシーなどの人を運送するものを増やしてほしい。
- ・ 子どもの遊べる場所を増やしてほしい。
- ・ マンションが欲しい。
- ・ 潰れた家を解体してほしい。

■ 3. 生業の再建

- ・ 観光地やイベントがたくさんあることだと思う。
- ・ 観光地を増やすこと。

■ 4. 安心してくらし続けられるまちづくり

- ・ 地震が起こったときに地域が孤立しないようにして欲しい。
- ・ 地震に耐性のある避難所を多くつくること。
- ・ 柳田中学校の体育館を直してほしい。
- ・ 中学校を統合する。
- ・ 一人で暮らしているご年配の方の体調が悪くなってしまった時にすぐに 119 できる整備
- ・ 大きな病院

■ 5. 復興プロジェクトの創出

- ・ 寄付されたお金をまともに使うこと。
- ・ 工事してくれる人たちの宿
- ・ 努力、諦めない。

【高校生】

コンビニをはじめとする店舗、交通に関すること（公共交通、自動運転車等）が多く挙がった。

<主なご意見>

■1. インフラの早期再生と強靱化

- ・ まずは道路の交通整備できるだけみんなが安心して行き来できるようになってほしい。
- ・ 整った広い道路

■2. くらしと地域コミュニティの再建

- ・ 自動運転車
- ・ バスが少ないので増やしてほしい。
- ・ 公共の交通機関の選択肢が増えてほしい。
- ・ 地元に店を増やしてほしい。
- ・ 夜遅くまでやっているお店
- ・ 家の近くにコンビニがなく不便なので、宇出津以外の地区にもコンビニがほしい。
- ・ 大きいスーパーマーケットがあつたらいい。
- ・ 年配の方々でも買い物しやすい位置にスーパーを作る。
- ・ なんでもあるショッピングモールが欲しい。
- ・ フード店が欲しい。
- ・ 娯楽も楽しめるモータースポーツ施設
- ・ 家が倒壊している人の建て直しはもちろん、直さないと住めない人の気持ちを考えて欲しい。
- ・ A T Mがほしい。

■3. 生業の再建

- ・ 働く場所が必要。元の能登の景色に戻す。
- ・ 会社がだめになった人がたくさんいるので仕事が必要だと思う。
- ・ どういった産業を発展させるのかを明確にする→あれもこれもやるより一部のことに力を入れたほうがよくなる気がする。

■4. 安心してくらし続けられるまちづくり

- ・ 育児がしやすい環境をつくる→今後在宅ワークが広く普及していけば、子育てがしやすい場所に人は集まると考えられるから。
- ・ 能登の学生を増やす→学生生活を過ごした思い出の地として住みたいと思ったりするかも。
- ・ 医療の充実、老後の安定

■5. 復興プロジェクトの創出

- ・ みんなが楽しめ、前向きになれるようなイベント
- ・ 若い人の人口増加
- ・ 地域の力 笑顔
- ・ 高齢者の意見ばかりを気にしないこと、もっと若い人（10～40 代）の意見を取り入れること（高齢者だけが満足しても若い人は能登から出ていくし、外から人は来ない。）

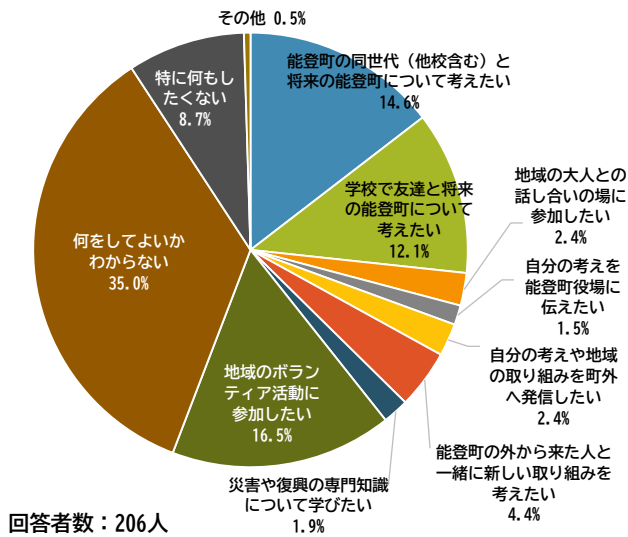
2 復興に向けたこれまでの取組

能登町の復興にどのように関わりたいですか。

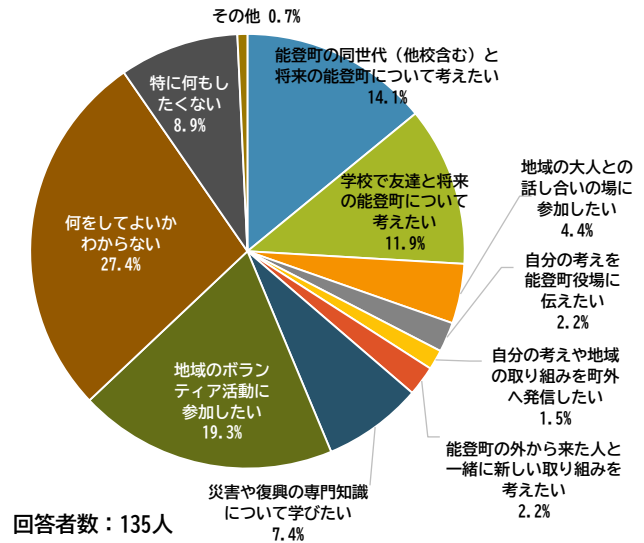
【中学生】能登町の復興への関わり方について、「地域のボランティア活動に参加したい」人は16.5%、「能登町の同世代と将来の能登町について考えたい」人は14.6%、「学校で友達と将来の能登町について考えたい」人は12.1%であった。「何をしてよいかわからない」人が35.0%と最も多かった。

【高校生】能登町の復興への関わり方について、「地域のボランティア活動に参加したい」人は19.3%、「能登町の同世代と将来の能登町について考えたい」人は14.1%、「学校で友達と将来の能登町について考えたい」人は11.9%であった。「何をしてよいかわからない」人が27.4%と最も多かった。

【中学生】



【高校生】



3 復興推進委員会・部会

3-1 復興計画推進委員会設置要綱

能登町復興推進委員会設置要綱

（設置）

第1条 令和6年能登半島地震からの復旧・復興（以下「復旧・復興」という。）の推進に関する意見を聴取するため、能登町復興推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会は、復旧・復興に向けた計画のほか、復旧・復興を推進するために必要な事項について協議し、町長に意見を述べるものとする。

（組織）

第3条 委員会は、委員 25 人以内をもって組織し、委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- （1） 関係諸団体の代表から推薦を受けた者
- （2） 知識経験を有する者
- （3） その他町長が必要と認める者

2 委員の任期は、1 年とする。但し委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に委員長及び副委員長を各 1 人置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(アドバイザー)

第5条 委員会にアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、町長が委嘱する。
- 3 アドバイザーは、会議に出席し、助言することができる。
- 4 アドバイザーの任期は、1年とする。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明及び意見を聴取し、並びに資料の提出を求めることができる。

(部会)

第7条 委員会の協議をより専門的に行うとともに、委員会の円滑な運営に資するため、委員会に「すまいと暮らしの再建・安全な地域づくり部会」及び「産業・経済復興部会」の2部会を置く。

- 2 部会は、委員長が指名する委員及び町民又は災害復旧・復興に関し識見を有する者のうちから町長が委嘱するものをもって組織する。
- 3 部会に部会長1人を置き、委員長がこれを指名する。
- 4 部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。
- 5 部会長は、必要があると認めるときは、部会に関係者の出席を求め、説明及び意見を聴取し、並びに資料の提出を求めることができる。

(報酬)

第8条 委員及びアドバイザーの報酬は、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（平成17年能登町条例41号）に準ずる。

(庶務)

第9条 委員会及び部会の庶務は、能登町復興推進課において処理する。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他に関し必要な事項は町長が別に定める。

3-2 復興推進委員会委員名簿

委員長:水元 圭介(能登町観光協会 副会長) 副委員長:坂上 信彦(能登町町会区長会連合会 会長)

委員区分	氏 名	役職等	部会	
			すまいと暮らし の再建・安全な 地域づくり	産業・経済復興
公共的団体 等の役員又 は関係諸団 体の代表が 推薦する者	坂上 信彦	能登町町会区長会連合会 会長	○	
	川崎 時夫	能登町町会区長会連合会 副会長(～9/26)	○ (部会長～9/26)	
	小坂 智	能登町町会区長会連合会 副会長	○ (部会長10/1～)	
	山森 景治	能登町町会区長会連合会柳田支部副支部長 (11/1～)	○	
	坂口 浩二	能登町校長会 代表	○	
	千間 純二	能登北部医師会 会長	○	
	重野 さとみ	能登町婦人団体協議会 会長	○	
	水元 圭介	能登町観光協会 副会長		○
	玉地 正幸	能登町商工会 青年部長	○	
	中田 洋助	石川県漁業協同組合		○
	西出 穰	能登農業協同組合		○
	高木 功次郎	能登森林組合		○
	豊若 裕治	興能信用金庫 復興支援部主任調査役		○
町民	辻野 実	株式会社 SCARAMANGA 代表取締役		○(部会長)
	薮下 哲也	合同会社 松寿 代表社員		○
	鶴野 薫子	会社員		○
	池崎 万穂	会社員	○	
	福池 功	北能産業 株式会社 代表取締役	○	
	上野 朋子	会社員		○
	芳野 欽之	芳野会計グループ 代表		○
	森 進之介	能登町定住促進協議会 事務局次長	○	
	金七 聖子	松波酒造 株式会社 若女将		○
学識経験を 有する者	小野田 泰明	東北大学大学院 工学研究科都市・建築学専攻教授	○	
	谷内江 昭宏	金沢大学能登里山里海未来創造センター 里山里海創造ワーキンググループ座長	○	

区 分	氏 名	役職等	主な分野
能登町復興 推進アドバ イザー	今村 久美	認定特定非営利活動法人 カタリバ 代表理事	教育
	島田 由香	株式会社 YeeY 共同創業者/代表取締役	関係人口
	高橋 博之	株式会社 雨風太陽 代表取締役	生業・農林水産業
	肥田 浩	一般社団法人 OPEN JAPAN 副代表	被災者支援

4 令和6年能登半島地震復旧・復興本部

4-1 令和6年能登半島地震復旧・復興本部設置要綱

能登町令和6年能登半島地震復旧・復興本部設置要綱

(設置)

第1条 令和6年能登半島地震による、能登町の再生と創造に向けた各種の取り組みについて、政府及び県と連携しながら役場内の調整を図り、推進するために「能登町令和6年能登半島地震復旧・復興本部」（以下「復旧・復興本部」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 復旧・復興本部は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) インフラの早期再生と強靱化に関すること。
- (2) くらしと地域コミュニティの再建に関すること。
- (3) 生業（なりわい）再建に関すること。
- (4) 安心してくらし続けられるまちづくりに関すること。
- (5) 復興プロジェクトの創出に関すること。
- (6) 再生と創造に向けた計画策定に関すること。

(組織)

第3条 復旧・復興本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって構成し、別表1に掲げる職にある者をもって充てる。

- 2 本部長は、復旧・復興本部を統括する。
- 3 副本部長は、本部長を補佐する。
- 4 副本部長（副町長）は、本部長が不在の時は、その職務を代理する。
- 5 本部長は、必要があると認めるときは、国の機関、県の機関、有識者に復旧・復興本部会議への出席を要請し、助言・提言を求めることができる。

(会議)

第4条 会議は、必要に応じて本部長が招集する。

(事務局)

第5条 復旧・復興本部に事務局を置く。

- 2 事務局の庶務は、復興推進課において行う。

(その他)

第6条 この告示に定めるもののほか、復旧・復興本部の運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

4-2 令和6年能登半島地震復旧・復興本部員名簿

区分	職名	氏名	職務
本部長	町長	大森 凡世	復旧・復興本部の総括・議長
副本部長	副町長	田代 信夫	本部長不在時の代理
	教育長	眞智 富子	本部長の補佐
本部員	議会事務局長	諸角 勝則	それぞれの所属関連事項の実施責任者
	総務課長	山下 栄治	
	復興推進課長	村木 茂	
	企画財政課長	吉村 泰輝	
	税務課長	折坂 昭夫	
	住民課長	内糸 英和	
	災害廃棄物対策室長	小川 勝則	
	健康福祉課長	西谷 幸一	
	農林水産課長	仲谷 宗	
	建設水道課長	鏡島 敏雄	
	建設水道課担当課長	眞智 芳郎	
	ふるさと振興課長	向井 豊人	
	柳田総合支所長	中橋 俊紀	
	内浦総合支所長	鵜垣 厚夫	
	公立宇出津総合病院事務局長	上野 英明	
	会計課長	石崎 宏子	
	教育委員会事務局長	河崎 恭子	
	能登消防署長	竹中 克彦	

5 用語集

用語		解説
あ行	I T	情報通信技術やコンピューター技術の総称のことです。
	アクセス性	接続しやすさ、近づきやすさ、利便性という意味のことです。
	アプローチ	「接近すること」や「働きかけること」という意味のことです。
	インバウンド	観光やビジネス、留学などを目的として外国人が日本に訪れることです。
	インフラ	水道、道路、電気網、通信設備などの、生活や産業の基盤となる設備や施設のことです。
	S N S	登録された利用者同士が交流できるWe bサイトの会員制サービスのことです。
	N P O	団体の構成員に対する収益の分配を目的とせず、様々な社会貢献活動を行う団体の総称のことです。
	オフグリッド技術	オフグリッドとは、水道、電気、ガスなどを公共インフラに依存せず、独立して確保できるようにする状態を意味します。オフグリッド技術はそれらを実現する技術のことです。
	オンライン	パソコンやスマートフォンなどの機器がインターネットにつながっている状態のことです。
か行	海岸保全施設	海岸保全区域にある堤防・突堤・護岸・砂浜、その他海水の浸入または海水による侵食を防止するための施設です。津波・高潮・波浪等の災害、海岸侵食などから背後の人命や財産を保護する役割を持っています。
	関係人口	地域に住んでいないが、積極的に地域活動に関わり、地域の発展や支援に貢献する人々の総称です。
	企業版ふるさと納税	企業が地方自治体に寄付を行い、税制上の優遇措置を受ける制度のことです。
	キャリア教育	こども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけのことです。
	教育D X	学校が、デジタル技術を活用して、カリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することです。
	ケースマネジメント	利用者のニーズを聞き取り、どのような支援をいつ提供するかプランを組んで調整を行い、利用者の状態や支援の利用状況を継続して見守ることです。
	耕作放棄地	以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け（栽培）せず、この数年の間に再び作付け（栽培）する考えのない土地のことです。
	交通ネットワーク	高速道路や新幹線や特急、飛行機や船舶など、人やモノの移動のための交通網（ネットワーク）のことです。
	交流人口	観光やイベント参加、ビジネス等を目的に、地域に短期的に訪れる人々の総称です。
	コーディネートの役割	いろいろな要素を統合したり調整したりして、一つにまとめ上げることです。
	コミュニティ	地域内で互いに助け合い、支え合う人たちの集まりのことです。

用語		解説
	コミュニティ・カーシェアリング	地域コミュニティや近隣の住民同士が主体的に運営し、シェアすることで、移動性・環境性・経済性の担保に加え、コミュニティ形成を促進するカーシェアリングのことです。
さ行	災害公営住宅	災害で家屋を失い、自力での住宅確保が困難な方のために、地方公共団体が国の補助を受けて供給する住宅のことです。
	災害時応援協定	行政機関と民間事業者、各種団体等または他の行政機関との間であらかじめ協定を締結し、災害時における人的・物的支援についての協力を確保するためのものです。
	サイクル	「循環」という意味のことです。
	サイクルルート	自転車利用者が安全かつ快適に走行できるよう整備された道路や経路のことです。
	サテライトオフィス	企業の本拠地から離れた場所に設置された小規模なオフィスのことです。
	産後ケア	出産後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行うことです。
	自主防災組織	「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織のことです。
	自助、共助、公助	自助とは、災害時に自らの力で自分の安全を守る取り組みのことです。 共助とは、災害の被害を最小限に抑えるために、近隣住民や地域の人と互いに助け合うことです。 公助とは、役場、消防、警察、自衛隊などの公的機関が行う援助のことです。
	児童クラブ	保護者の就労時間中の放課後や休日に子どもたちが安全に過ごせる場所を提供し、学習支援や遊びの機会を提供するものです。
	集中型エネルギーシステム	大規模な火力発電所や水力発電所などの非常に膨大な量の電力を発電できる集中型電源のことを指します。
	生涯学習活動	人々が生涯に行う学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習のことです。
	自立エネルギーシステム	太陽光発電、小水力発電、小規模地熱発電等の地域資源を活用した比較的小規模な発電施設を地域に分散配置し、送電線と組み合わせることで電力の地域循環を生み出す仕組みのことです。
	スクールカウンセラー	児童生徒の心の健康と成長をサポートするために学校内で配置される専門職で、心理的・情緒的な相談や問題解決を助けます。
	セミナー	特定のテーマについて興味があり、その知識や技術を習得したいという人を広く募って開催されるイベントのことです。
	創造的復興	震災前の姿に復元するのではなく、もともとあった課題を踏まえ、未来志向に立って以前よりも良い状態へ持っていく復興理念のことです。
た行	体験型観光	その土地の文化や自然を肌で感じ、体験に重心をおく観光スタイルのことです。
	滞在型観光	1カ所または一定の地域に滞在（宿泊）して、現地の文化や自然などに触れ合いながら楽しむ観光スタイルのことです。
	タイムライン	過去の行動から未来の予定までを時間軸に沿って並べ、「経過」をわかりやすく表したもののことです。

用語		解説
	治山施設	山地の荒廃の復旧や荒廃を未然に防ぐために設置される人工的な施設や構造物のことです。
	チャレンジショップ	将来の新規開業を目指し、本格的な開業の前に一定期間試験的な開業ができる施設のことです。
	中間支援組織	行政と地域の上に立ち、中立的な立場で様々な活動を支援する組織のことです。
	テレワーク	インターネットを利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のことです。
	都市計画マスタープラン	都市計画法に規定された市町村の都市計画に関する基本的な指針のことです。
	トレンド	「傾向」「動向」という意味のことです。
	ニーズ	「要求」「求めているもの」という意味のことです。
	二地域居住	主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点をもうける暮らし方のことです。
	農業用施設	農業経営のための施設や農畜産物の加工・販売施設のことです。
	ノウハウ	専門的な技術や知識、実務経験から生まれる独自の方法論のことです。
	能登の水産関係港の復興に向けた協議会	能登地域の漁港や港湾の復興を目的として、石川県が設置した組織のことです。この協議会は、被災した港の復旧方針を策定し、関係機関と連携して復興を推進する役割を担っています。
	乗合タクシー	通常のタクシー車両を使い、事前予約により複数の人と乗り合わせて、自宅等と指定目的地を運行する公共交通のことです。
は行	ハザードマップ	洪水、土砂災害、津波等の自然災害に対して、被害が予測される区域および避難地・避難路等が記載されている地図のことです。
	バックアップ	「支援」「援助」という意味のことです。
	パブリックコメント	行政機関が政策や計画等の案を公表し、住民から意見や提案を募集する手続きのことです。
	フェーズ	「段階」や「区切り」、また「局面」という意味があり、ビジネスシーンでは、企画やプロジェクトの進捗や成長過程を区切る際に使われます。
	ブランディング	ターゲット顧客に観光地の名前やその風景等をイメージさせる行動や営業活動、経済活動のことです。
	ブランド	一般的には他の商品やサービス等とは差別化された付加価値を有し、消費者、来訪者等から高い評価や期待を得ている商品やサービス等のことです。
	フルリモート	会社にまったく出勤せず、自宅など完全に社外だけで働く形態のことです。
	プロモーション	消費者に商品やサービスを認知させ、購買意欲を持たせるための活動のことです。
	ボランティア	自発的に他者や社会のために無償でおこなう活動、またはその活動をおこなう人のことです。
	ボランティアツーリズム	旅行とボランティア活動を組み合わせたもので、旅行先の地域社会に貢献する活動を行う旅行の形態です。
ま行	マルシェ	個人店や生産者が広場等の1か所に集まって出店し販売等を行うことです。
	マンパワー	人が生み出す労働力のことです。
	水循環型バイオトイレ	人間の腸内細菌や自然に存在する微生物の力を使い、人間のし尿を分解・蒸発処理するトイレシステムのことを言います。

用語		解説
	メンタルヘルスケア	心の健康を維持し、ストレスや不安などの精神的な問題を予防・改善するための取組や支援のことです。
や行	遊休施設	使用されないで放置されている施設のことです。
ら行	ライフライン	水道、電気や通信網など、日常生活に必要不可欠なものを供給する設備のことです。
わ行	ワークショップ	参加者が積極的に意見を出し合い、討論対話を重ねることで、新たなアイデアや解決策を見つけ出すことを目的として実施する場や仕組みのことです。
	Wi-Fi スポット	無線ネットワーク通信を使える場所のことです。